

# 2026

## 履修案内

豊橋創造大学大学院  
健康科学研究科





# INDEX

- 02 … 2026年度 大学院健康科学研究科 行事予定表
- 03 … I 大学院設立の趣旨・内容・特徴・期待する成果など
- 09 … II 教育課程の編成の考え方及び特色
- 13 … III 授業科目及び履修方法
- 16 … IV 学業に関する諸事項
- 18 … V 学位論文審査基準
- 19 … VI 学籍に関する諸手続きについて
- 20 … VII 学生生活上の諸事項について
- 20 … VIII 大学院生の学校施設の利用について
- 21 … 授業科目の紹介
- 22 … シラバス
- 65 … 巻末
- 67 … 豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学の「プライバシーポリシー」について
- 68 … 豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部における個人情報の取り扱いについて

## 2026年度 大学院健康科学研究科 行事予定表

	日 程
入学式	4月1日(水)
オリエンテーション	4月1日(水)
春学期授業開始	4月6日(月)
健康診断	4月11日(土)
春学期授業終了	7月29日(水)
秋学期授業開始	9月16日(水)
冬期休業	12月26日(土)～2027年1月5日(火)
秋学期授業再開	2027年1月6日(水)
秋学期授業終了	2027年2月1日(月)
修了判定	2027年3月3日(水)(2年生のみ)
成績通知	2027年3月中旬
学位授与式	2027年3月18日(木)

### 修士論文審査に関するスケジュール (2025年度生用)

	日 程
修士論文題目報告書	2026年1月30日(金)17時 教務課
修士論文研究計画発表会①	2025年11月5日(水)6限 エントリー締切 2025年9月30日(火)17時 教務課
修士論文研究計画発表会②	2026年2月4日(水)6限 エントリー締切 2025年12月26日(金)17時 教務課
学位授与申請書提出期限	2026年11月27日(金)17時 教務課 予定
修士論文提出期限	2027年1月18日(月)17時 教務課 予定
修士論文審査	2027年1月中旬～2月中旬
修了判定会議	2027年3月3日(水) 予定
修士論文発表会	2027年3月10日(水)15時 予定

### 修士論文審査に関するスケジュール (2026年度生用)

	日 程
修士論文題目報告書	2027年1月29日(金)17時 教務課
修士論文研究計画発表会①	2026年11月4日(水)6限 エントリー締切 2026年9月30日(水)17時 教務課
修士論文研究計画発表会②	2027年2月3日(水)6限 エントリー締切 2026年12月24日(木)17時 教務課
学位授与申請書提出期限	2027年11月26日(金)17時 教務課
修士論文提出期限	2028年1月18日(火)17時 教務課
修士論文審査	2028年1月中旬～2月中旬
修了判定会議	2028年3月1日(水) 予定
修士論文発表会	2028年3月8日(水)15時 予定

# I 大学院設立の趣旨・内容・特徴・期待する成果など

研究科長

世界屈指の長寿国日本において、全ての国民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするために、健康寿命の延伸やQOLの向上を図り、国民自らが主体的に健康づくりに取り組むことが強く求められている。こうした社会的背景の下、豊橋創造大学においても、理学療法学士や看護師をはじめとする健康寿命の延伸およびQOLの向上に寄与する専門的知識を有する職業人の育成を目指して教育を展開している。しかし、社会の高齢化がますます進行する状況にある昨今、様々なライフステージにあり、多様なニーズを持つ人々の健康寿命の延伸や生活支援に向けた人材育成ならびに新たな技術開発の必要性が高まっている。したがって、従来の医学・医療的な見地からのリハビリテーションや看護を研究・教育するだけでなく、リハビリテーション学と看護学およびその学際領域に関連する分野の基礎的要素を涵養して新たな健康増進（ヘルスプロモーション）を図る上で必要な関連領域、特に家庭や地域の中で活動やスポーツ等の日常活動において人間関係や安全などの基本的な生活要素を含めたあらゆる「健康決定要因」を対象として、人の健康について考え、健康を支えるために必要な知識や技術について研究する領域が必要となっている（資料1）。

## 資料1. 超高齢化社会を迎えた健康増進に係る分野への社会的要請

- (1) 疾病・障害等、様々な健康レベルにあるあらゆる年代の人々に対応した効率的なリハビリテーション・看護に係る専門的知識および技術開発と普及の必要性
- (2) 健康寿命の延伸（健康長寿）を保障する生活支援・疾病障害予防プログラムと健康生活の支援技術、および支援システムの構築に係る専門的知識・技術の開発と普及の必要性
- (3) リハビリテーション・看護・生活健康支援分野における指導的人材養成の必要性
- (4) 保健・医療・看護・介護・福祉現場の従事者の再教育やキャリアアップを保障する高度な教育研究機関の必要性

こうした社会的要請に応えるためには、4年制大学での幅広い教育の上にたち、学際領域を含む専門的研究と教育を強力に推進する機関の設置が不可欠である。本学はこのような認識に基づき、これからの地域社会が必要とする保健・医療・看護・介護・福祉を含む健康科学分野における総合的かつ多角的な視点を有した有能かつ指導的役割の果たせる優秀な人材養成のため、保健医療学部理学療法学科および看護学科を基礎とする大学院修士課程健康科学研究科を設置した。本研究科では、疾病の予防、回復ならびに健康づくり支援の理念に立ち、生活健康支援および障害予防支援に係る技術的課題および諸支援活動のマネジメントに係る現代的課題に応えるため、リハビリテーション学および看護学を統合して総合的かつ多角的な視点から専門的知識・技術の研究を進めるとともに、これらの分野において先進的知識・技術を普及できる実践者、指導者、研究教育者の養成を目的としている。そのため、リハビリテーション学分野および看護学分野に関する基礎研究、臨床研究、応用研究を推進することによって、それ

ぞれの分野の学問体系の確立および学際的・総合的な新たな学問分野の体系を確立し、当該分野の指導的立場に立てる人材を養成するとともに、その成果を社会に還元することを目的としている（資料2）。

#### 資料2. 養成する人材

- ①リハビリテーション学領域における問題解決能力を有する指導的な人材
- ②看護学領域における多角的視点を有する指導的な人材
- ③地域住民の課題解決に取り組む総合的な視野を持つ専門職業人
- ④生活健康支援等の健康科学分野の現代的課題に取り組む教育研究者

本研究科の名称である「健康科学」は、従来の障害回復や介護等医療支援の域を越えた、幅広い生活健康支援のための研究を包括した学術領域を表している。すなわち、人の健康を害する障害と生体機能の回復・増進の支援についての知識・技術を集積する「リハビリテーション学領域」と、人の生涯にわたっての健康支援や健康を維持・増進するためのケアについての知識・技術を集積する「看護学領域」の2つの領域と、両領域に共通する福祉・医学等の「専門基礎領域」から構成されている。また、この「健康科学」の分野では、指導的人材が不足しており、人材養成が必要とされている。そこで本研究科では、リハビリテーション学や看護学をはじめとする多様な研究バックグラウンドを有する教授陣と最新の充実した教育研究設備を擁し、これからの「健康科学」分野における指導的人材養成を行う。これからの日本そして世界の人々の健康を支えていく人材養成と研究成果の社会への還元を目指す。

### I. アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

#### 1. 理念・目的等

本研究科では、人々の健康生活を支援し、健康寿命の延伸に貢献できる指導的人材を養成することを目的とした研究科である。

#### 2. 選抜者基本方針

健康科学研究科の研究領域に強い関心を持ち、将来その領域において研究・実践を行う明確な意思を持つ入学者の選抜を行うことを基本方針とする。

#### 3. 求める学生像

- ・保健医療などの臨床・実践の場面において健康寿命延伸を目指す人
- ・基礎研究の視点から健康科学領域における問題解決を目指す人
- ・健康科学領域において指導的な役割を担おうとする人
- ・社会人として活躍しながら研究を志す人

#### 4. 入学者選抜方針

##### (1) 内部推薦入試（一期、二期、三期、四期）

本学在学中の成績が優秀で、研究に対する動機・意欲があり、研究方針が明確で協調性があり将来性を有する者。

##### (2) 一般入試（一期、二期、三期、四期）

健康科学ならびに関連する領域についての知識とそれに対する意見を持つ者。さらに、研究に対する動機・意欲があり、研究方針が明確で協調性があり将来性を有する者。

##### (3) 社会人選抜入試（一期、二期、三期、四期）

大学学部卒業相当あるいは本研究科が定める職歴・研究歴を有し、健康科学ならびに関連する領域についての知識とそれに対する意見を持つ者。さらに、研究に対する動機・意欲があり、研究方針が明確で協調性があり将来性を有する者。

## Ⅱ. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### 1. 学問領域の編成

健康増進に係る健康科学分野の基礎的知識を涵養して、健康寿命の延伸に貢献するために必要な専門的知識や技能および態度を修得できるように3つの学問領域を設定している。1つ目は、人の健康を阻害する要因である障害と生体機能の維持・回復・増進を支援する方策についての知識・技術を集積する「リハビリテーション学領域」である。2つ目は、全ての成長発達段階にある人々、生活の場から治療の場まで様々な場にいる人々、さらに健康のあらゆる段階の人々を対象とする実践的で体系的な学問であり、この看護学に関する研究について学ぶ「看護学領域」である。そして、3つ目は、「リハビリテーション学領域」と「看護学領域」の両領域に共通する医学および健康科学に関連した領域である「専門基礎領域」から構成されている。

### 2. 科目編成

専門とする研究領域とそれに関連する多様な科目はもちろん、他の研究領域や専門基礎領域の科目等を幅広く履修して、本研究科の特色である多角的な視点から学際的な研究活動を実現させることを目的としており、「基礎科目」「専門科目」および「課題研究科目」の3つの科目群で編成される。

#### (1) 基礎科目（必修科目）

本研究科の総論・導入として基礎的な科目群である健康生活を支援するために必要な基本的知識や健康決定要因など健康科学に関する知識について、「心身機能・身体構造」と「病態」について人の生活行動に関係の深い「運動系」「神経系」を中心に学修する「健康科学特論Ⅰ」および「高齢者」「家族」「健康支援」の視点から再構成し、「健康長寿」を追求するための基礎的知識を習得する「健康科学特論Ⅱ」を配置している。

#### (2) 専門科目

##### ①リハビリテーション学領域

健康長寿社会に向けて運動や行動など身体活動を中心としたリハビリテーションの基盤となる知識や技術について修得する。さらに研究領域に関係する分野の最先端知識と研究手法を獲得し、新たな研究課題を探索するため特論科目を配置している。

## ②看護学領域

看護の本質を探究し、看護実践への科学的なアプローチの探究や高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上にむけた特論科目を配置している。

## ③専門基礎領域

リハビリテーション学領域と看護学領域の両領域に共通し、本研究科の特色である多角的な視点から学際的な研究活動を実現させ、専門分野をより深く学修することを支援する科目を配置している。

## (3) 課題研究科目

「健康科学特別研究」を必修としている。ここでは、研究計画立案、調査あるいは実験計画の作成と実行、研究結果の分析と考察、そして論文執筆を通じて研究指導教員との議論を含む指導を受けながら、修士論文の完成に至る。その過程において、全ての研究科所属教員が参加する修士論文中間報告会にて、研究計画あるいは研究結果（の一部）を発表することで、多角的な視点から指導を受ける。

## Ⅲ. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

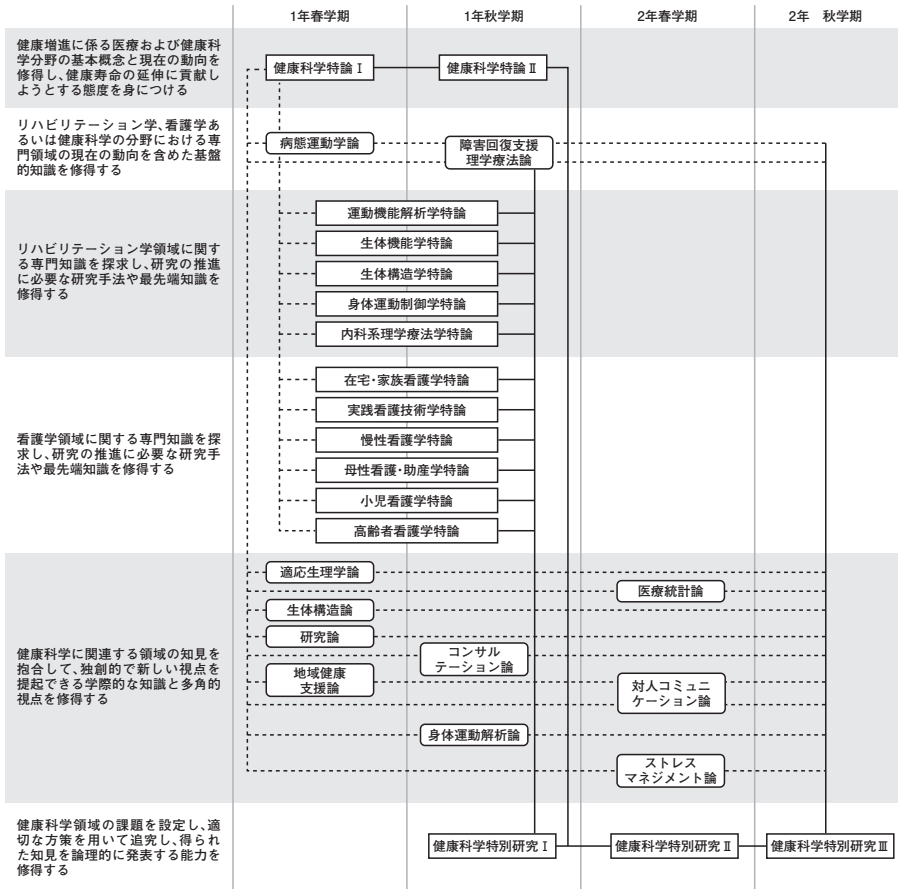
### 1. 大学院のディプロマポリシー

- (1) 修士課程健康科学研究科では、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位数を修得し、かつ本研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に修士の学位を授与する。
- (2) 修士課程修了にあっては、専攻のディプロマ・ポリシーに到達していることを目安とする。

### 2. 健康科学研究科健康科学専攻のディプロマポリシー

- (1) 健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識を修得している。
- (2) 社会的な動向に関心を持ち、関連する領域の知見を抱合して、独創的で新しい視点を提起できる。
- (3) 研究領域に関連する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探求する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持っている。（関心・意欲）
- (4) 人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につけている。
- (5) 自らが設定した研究課題を、適切な方策を用いて追究し、得られた知見を論理的に表現できる。

# 大学院健康科学研究科カリキュラムチャート



大学院健康科学研究科健康科学専攻修士課程 カリキュラムマップ(2023年度入学生以降)

科目名	専攻のディプロマ・ポリシー						
	1. 健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識を修得している。 2. 社会的な動向に関心を持ち、関連する領域の知見を包含して、独創的で新しい視点を提起できる。 3. 研究領域に関する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探索する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持っている。 4. 人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につけている。 5. 自らが設定した研究課題を、適切な方策を用いて追究し、得られた知見を論理的に表現できる。						
基礎科目	健康科学特論Ⅰ	◎	○			○	
基礎科目	健康科学特論Ⅱ	◎	○			○	
専門科目	リハビリテーション学領域	障害回復支援理学療法論	◎	○	○	○	
		病態運動学論	◎	○	○	○	
		運動機能解析学特論	◎	◎	◎	◎	○
		生体機能学特論	◎	◎	◎	◎	○
		生体構造学特論	◎	◎	◎	◎	○
		身体運動制御学特論	◎	◎	◎	◎	○
	看護学領域	内科系理学療法学特論	◎	◎	◎	◎	○
		在宅・家族看護学特論	◎	◎	◎	◎	○
		実践看護技術学特論	◎	◎	◎	◎	○
		慢性看護学特論	◎	◎	◎	◎	○
		母性看護・助産学特論	◎	◎	◎	◎	○
		小児看護学特論	◎	◎	◎	◎	○
	専門基礎領域	高齢者看護学特論	◎	◎	◎	◎	○
		適応生理学論	◎	○	◎	◎	
		医療統計論	○				○
		生体構造論	◎	○	◎	◎	
		研究論	◎		○		○
		対人コミュニケーション論	○	○		◎	
コンサルテーション論		○	○	○	◎		
身体運動解析論		◎	○	◎	◎		
課題研究科目	ストレスマネジメント論	○	○	○	◎		
	地域健康支援論	◎	○	◎	◎		
	健康科学特別研究Ⅰ	◎	○	○	◎	◎	
健康科学特別研究Ⅱ	◎	○	○	◎	◎		
健康科学特別研究Ⅲ	◎	○	○	◎	◎		

専攻の学修成果 ◎：強く関連 ○：関連

## Ⅱ 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1) 学修領域設定の考え方とその特色

従来の医学・医療的な見地からのリハビリテーションや看護を研究・教育するだけでなく、リハビリテーション学と看護学およびその学際領域に関連する分野の基礎的要素を涵養して新たなヘルスプロモーションを図る上で必要な関連する領域、特に家庭や地域の中で活動やスポーツ等の日常活動において人間関係や安全といった基本的な生活要素を含めたあらゆる「健康決定要因」を対象として、人の健康について考え、健康を支えるために必要な知識や技術について研究する学問領域を設定している。そこで本研究科を構成する主要な学問領域は、人の健康を害する障害と生体機能の回復・増進の支援についての知識・技術を集積する「リハビリテーション学領域」と、人の生涯にわたっての健康支援や健康を維持・増進するためのケアについての知識・技術を集積する「看護学領域」の2つの領域と共に両領域に共通する福祉・医学等の「専門基礎領域」から構成される。主たる専攻領域である「リハビリテーション学領域」と「看護学領域」は独立した学問領域であり、両領域に共通して本研究科の特色である多角的な視点から総合的・学際的な研究活動を実現させ、専門分野をより深く学修することを支援するために「専門基礎領域」科目群を設定・配置している。

### 2) 「リハビリテーション学領域」における授業科目の設定

リハビリテーション学領域においては、健康長寿社会に向けて運動・行動の身体活動を中心としたリハビリテーションに関して基盤となる知識・技術等および理学療法分野での指導者としての基礎を学ぶとともに、最先端知識・研究ならびに技術開発と普及の研究を行うための特論科目を配置している。

### 3) 「看護学領域」における授業科目の設定

看護学領域においては、健康長寿社会に向けて看護に関して基盤となる知識・技術ならびに倫理観を獲得し、看護実践および看護分野での指導者として必要な最先端知識・研究ならびに技術開発と普及の研究をはかるため特論科目を配置している。

### 4) 「専門基礎領域」における科目設定

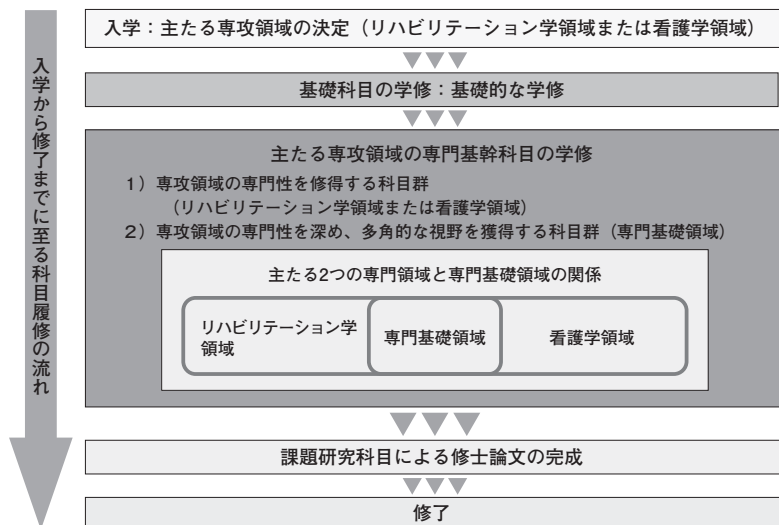
両領域に共通し、本研究科の特色である多角的な視点から総合的・学際的な研究活動を実現させ、専門分野をより深く学修することを支援するために、専門基礎領域科目を配置している。健康長寿社会に向けて運動・行動の身体活動を中心としたリハビリテーション、人間の健康に係る地域社会の関わりおよび生涯にわたる健康支援や健康を維持・増進するためのケアについての基盤・最先端研究ならびに技術普及に関する研究を行う準備のための学修として、「地域健康支援論」「生体構造論」「適応生理学論」を設定している。また、対人関係の構築・維持・改善について学修する「対人コミュニケーション論」「コンサルテーション論」「ストレスマネジメント論」も教育課程に配置している。

さらに、「医療統計論」および「研究論」などを置き、健康支援活動に関する基礎から応用的な実験的な研究法および社会調査・疫学的研究法、質的研究法の修得を目指す。

## 教育課程における科目編成と特徴

教育課程は、それぞれの領域について効率的かつ学問的・体系的に学ぶことができることを目標に、教育課程における科目は「基礎科目」「専門科目」および「課題研究科目」から構成する。主たる専攻領域における学修の前に、本研究科の総論・導入として基礎的な科目群である「基礎科目」を学修し、それを踏まえて専攻毎の知識を修得するとともに多角的な視野を獲得する専門科目群である「専門科目」を学修し、そして修士論文の完成を目指す「課題研究科目」を履修するという科目設定を行っている。本研究科の特色である専攻領域に共通する科目群（専門基礎領域科目）を専門科目の中に配置することで、多角的な視野からの専門領域の学修が可能となっている（資料）。

### 資料



### 1) 基礎科目

本研究科の総論・導入として基礎的な科目群である健康生活を支援するために必要な健康決定要因など健康科学に関する知識について、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health）に基づく「人間の生活機能と障害分類法」に従い、「健康科学特論Ⅰ」では「心身機能・身体構造」について人の生活行動に関係の深い「運動系」「神経系」を中心に、「健康科学特論Ⅱ」では「高齢者」「家族」「健康支援」の視点から再構成し、臨床医学、基礎医学およびリハビリテーション学ならびに看護学の各分野の担当教員がオムニバス方式で講義し、健康の回復・維持・増進の支援に関する専門的知識を再構成し、「健康長寿」を追求するための基礎的知識を修得する。また、この基礎科目（「健康科学特論」）は、看護学科や理学療法学科を卒業し国家資格を有していない関連学問領域からの入学者および社会人に対する大学院修士課程での専門教育への接続科目としての性格も有している。

## 2) 専門科目

専門科目は、基礎科目を踏まえて専攻毎の知識を深める科目群として ①リハビリテーション学 ②看護学③専門基礎領域の3つの領域によって構成されている。

## 3) 課題研究科目

課題研究科目として「健康科学特別研究Ⅰ」「健康科学特別研究Ⅱ」「健康科学特別研究Ⅲ」を必修とする。ここでは、研究計画立案および調査・実験計画作成に関する適切な指導を行うとともに、グループおよび個人対面による調査・実験・研究進行に関する議論を通じて、修士論文の完成に至る。

## 《科目ナンバリング（体系的な教育課程の編成）について》

### ・科目ナンバリング

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みです。大学内における授業科目の分類という意味を持っています。学問の分類や対象とするレベル（学年等）等を示すことで、学生が適切な授業科目を選択する際の参考となります。授業の位置づけがわかるように各科目に番号を振ることで、修士課程の科目全体を体系化でき、学生が授業を選びやすくすることを狙いとしています。

### ・科目ナンバリング制度の学内基準

<u>HS</u>	<u>D</u>	<u>M</u>	<u>5</u>	<u>005</u>
学科／科	学修段階	位置づけ	配当学年	整理番号

本学のナンバリングは、まず、頭文字として、学科／科別にアルファベット2文字で分類しています。二つ目に、カリキュラムチャートにて分類された学習段階を英語表記（A～Z）で分類。次に、位置づけとして基礎科目（L）と専門科目（M）を表記しています。そして、配当学年を表示し、最後に科目順に整理番号を表記しています。

大学院健康科学研究科・・・HS Graduate School of Health Sciences

学修段階・・・カリキュラムチャートにて分類された学修段階を英語表記（A～Z）で分類。

位置づけ・・・基礎科目：L

専門科目：M

配当学年・・・大学院：5

整理番号・・・001番～999番

以上

### Ⅲ 授業科目及び履修方法

2026年度入学生用

科目区分	科目コード	科目ナンバリング	科目名	単位数			開講時期 (●)				備考
				必修	選択	自由	1年		2年		
							春	秋	春	秋	
基礎科目	5101	HSAL5001	健康科学特論Ⅰ	2			●				
	5102	HSAL5002	健康科学特論Ⅱ	2				●			
専門科目	リハビリテーション学領域	5105	HSBM5001	障害回復支援理学療法論	2				●		
		5106	HSBM5002	病態運動学論	2		●				
		5108	HSCM5001	運動機能解析学特論	4			●			
		5110	HSCM5002	生体機能学特論	4			●			
		5113	HSCM5003	生体構造学特論	4			●			本年度は開講しない
		5115	HSCM5005	身体運動制御学特論	4			●			本年度は開講しない
		5116	HSCM5006	内科系理学療法学特論	4			●			本年度は開講しない
	看護学領域	5126	HSDM5001	在宅・家族看護学特論	4			●			
		512A	HSDM5003	実践看護技術学特論	4			●			
		512F	HSDM5004	慢性看護学特論	4			●			
		512G	HSDM5005	母性看護・助産学特論	4			●			
		512H	HSDM5006	小児看護学特論	4			●			本年度は開講しない
		512I	HSDM5007	高齢者看護学特論	4			●			
	専門基礎領域	5131	HSEM5001	適応生理学論	2		●				
		5132	HSEM5008	医療統計論	2				●		
		5133	HSEM5002	生体構造論	2		●				本年度は開講しない
		5134	HSEM5003	研究論	2		●				
		5135	HSEM5009	対人コミュニケーション論	2				●		
		5138	HSEM5004	コンサルテーション論	2			●			
		513D	HSEM5007	身体運動解析論	2			●			本年度は開講しない
513F		HSEM5010	ストレスマネジメント論	2				●			
513G		HSEM5008	地域健康支援論	2		●				本年度は開講しない	
課題研究科目	5141	HSFM5001	健康科学特別研究Ⅰ	2			●				
	5142	HSFM5002	健康科学特別研究Ⅱ	4				●			
	5143	HSFM5003	健康科学特別研究Ⅲ	6					●		

2023～2025年度入学生用

科目区分	科目コード	科目ナンバリング	科目名	単位数			開講時期(●)			備考	
				必修	選択	自由	1年		2年		
							春	秋	春		秋
基礎科目	5101	HSAL1001	健康科学特論Ⅰ	2			●				
	5102	HSAL1002	健康科学特論Ⅱ	2				●			
専門科目	リハビリテーション学領域	5105	HSBM1001	障害回復支援理学療法論	2				●		
		5106	HSBM1002	病態運動学論	2		●				
		5108	HSCM1001	運動機能解析学特論	4			●			
		5110	HSCM1002	生体機能学特論	4			●			
		5113	HSCM1003	生体構造学特論	4			●			本年度は開講しない
		5115	HSCM1005	身体運動制御学特論	4			●			本年度は開講しない
		5116	HSCM1006	内科系理学療法学特論	4			●			本年度は開講しない
	看護学領域	5126	HSDM1001	在宅・家族看護学特論	4			●			
		512A	HSDM1003	実践看護技術学特論	4			●			
		512F	HSDM1004	慢性看護学特論	4			●			
		512G	HSDM1005	母性看護・助産学特論	4			●			
		512H	HSDM1006	小児看護学特論	4			●			本年度は開講しない
	専門基礎領域	5131	HSEM1001	適応生理学論	2		●				
		5132	HSEM2008	医療統計論	2				●		
		5133	HSEM1002	生体構造論	2		●				本年度は開講しない
		5134	HSEM1003	研究論	2		●				
		5135	HSEM2009	対人コミュニケーション論	2				●		
		5138	HSEM1004	コンサルテーション論	2			●			
		513D	HSEM1007	身体運動解析論	2			●			本年度は開講しない
513F		HSEM2010	ストレスマネジメント論	2				●			
513G		HSEM1008	地域健康支援論	2		●				本年度は開講しない	
課題研究科目	5141	HSFM1001	健康科学特別研究Ⅰ	2			●				
	5142	HSFM2002	健康科学特別研究Ⅱ	4				●			
	5143	HSFM2003	健康科学特別研究Ⅲ	6					●		

## 修了要件

次の要件を満たしているときは、修了を認めることとする。

①学生は2カ年以上在学すること。

②履修要件に定める授業科目を履修30単位以上を修得し、論文審査に合格すること。

基礎科目：4単位必修

「健康科学特論Ⅰ」2単位必修

「健康科学特論Ⅱ」2単位必修

専門科目：14単位以上

所属領域の特論科目4単位必修

専門基礎領域およびその他の科目10単位以上

課題研究科目：12単位必修

「健康科学特別研究Ⅰ」2単位必修

「健康科学特別研究Ⅱ」4単位必修

「健康科学特別研究Ⅲ」6単位必修

ただし、履修単位の上限は40単位とする。

③研究指導教員の指導を受けたいうえで、当該領域の目的に応じ、修士論文を提出し、修士論文審査および最終試験に合格すること。

## 他大学院との単位互換制度について

本大学院では学術的及び教育・研究の充実をはかることを目的とし、大学院単位互換制度を設けています。

教育研究上の必要に応じて協定締結校である豊橋技術科学大学大学院ならびに放送大学大学院で開講されている授業科目を履修することができます。

この制度に基づいて履修した授業科目の単位は、6単位を超えない範囲で修了要件に必要な単位として算入されます（「豊橋創造大学大学院単位認定に関する規程」参照）。

本大学院とは異なる分野の科目を履修することができるので、履修を希望する学生は研究指導教員と相談のうえ、所定の期日までに手続きをしてください。

## Ⅳ 学業に関する諸事項

### 1. 授業

#### (1) 授業時間割

年度のはじめに、大学院掲示板に掲示するとともに、事務局から学生に配布する。  
なお、授業時間割に変更があった場合、その都度、掲示する。

時 限	時 間
第1限	9:00～10:30
第2限	10:40～12:10
第3限	13:10～14:40
第4限	14:50～16:20

時 限	時 間
第5限	16:30～18:00
第6限	18:10～19:40
第7限	19:50～21:20

#### (2) 休講・補講

担当者から休講の届出があった場合には、その都度掲示で通知する。登校したら授業開始前に掲示に目を通されたい。補講は、通常は補講・集中講義期間に実施され、時間割はその都度掲示する。

原則として、以下の場合は「休講」になる。

- ①休講掲示があった場合
- ②学校行事等により、平常授業を行わない場合
- ③授業開始から30分以上経過しても、授業担当から教室に連絡がない場合
- ④愛知県東三河南部に「暴風警報」（暴風雪警報も含む）又は「特別警報」が発令された場合
- ⑤交通機関のストライキ等の場合  
JR 東海、豊橋鉄道、名鉄のいずれかがストライキ又は自然災害等の影響で運行を停止し、授業等の実施が困難な場合
- ⑥大規模地震が発生した場合、もしくは「南海トラフ地震に関連する情報」で発表された情報等にもとづき、講義または試験等を行うことが困難であると学長が判断した場合は休講（場合によって休校）とします。

#### 【詳細情報】 暴風警報、特別警報の発令及び解除に関する授業等の取扱について

愛知県東三河南部に暴風警報（以降、暴風雪警報も含む）又は特別警報が発令された場合は、授業等を休講とする。ただし、愛知県東三河南部の暴風警報又は特別警報が解除された場合の授業等の取扱いは、次の通りとする。

状 況	時 間
午前7時までに解除された場合	平常授業等を実施する。
午前11時までに解除された場合	午後1時以降の授業等を実施する。
午後4時までに解除された場合	午後6時以降の授業等を実施する。

なお、愛知県東三河南部以外の地域に居住する学生で、居住地域・通学経路に暴風警報、特別警報が発令されている場合は、授業等への出席を要さない。その際は3日以内に教務課カウンターへ申し出て、事務手続きを行うこと。

※実習中の場合は、実習等の実施学科・科の指示に従うこと。

※交通機関の遅延等のため遅刻または欠席した場合は、出校後直ちに該当する授業科目の担当者へ届け出るものとする。延着証明書が渡された場合はそれを添えること。

## 2. 履修の手続き

### (1) 指導教員との相談

年度のはじめに、なるべくすみやかに指導教員に会って、履修計画および今後の研究計画等について相談すること。なお、何らかの事情で、従来の指導教員から指導が受けられない状況が発生した場合には、従来の指導教員と今後指導を希望する教員（原則として専任教授）の承認を得て変更することが必要である。（指導教員が欠けたままであると、各自の学位論文作成指導および論文審査の上で著しく不利益を被ることになる。）

また、従来の指導教員から承認が得られない事由がある時は、事務局を通じて研究科長の指示を受けること。（教員の異動による変更については含まない。）

※ 指導教員との連絡方法を各自確認すること。

### (2) 履修登録

当年度履修する授業科目については、必ず所定の期限までに登録の手続きを行わなければならない。（登録のない授業科目は、受講および試験を受けることはできない。）所定の期限を過ぎても登録を完了していない者については、修学の意志がないものと見なす。なお、履修登録は履修登録表によって行うが、その用紙において不備がある場合には当該授業科目の登録は無効となる。提出先は事務局とする。

## 3. 期末試験

### (1) 期末試験の実施方法・受験資格

期末試験は、「筆記試験」、「レポート」のいずれかの方法で実施されるが、試験を実施しない場合もある。実施しない場合の評価は平常点である。履修科目の試験がどの方法で行われるのかについては、授業が終了するまでに担当教員に確認すること。担当者から事務局へ報告のあったものについては、学年試験実施方法一覧表として掲示する。なお、試験の受験資格としては、授業日数の3分の2以上の出席が必要である。

### (2) レポートの提出（期末試験の一つ）

レポートは、授業科目の単位を得るための簡易論文である。レポートが課された場合は、担当教員から指示された、テーマ・枚数・提出期限および提出先（担当教員または事務局）などを確認し、必ず指定の期限までに提出しなければならない。

### (3) 成績の評価

履修科目については、授業科目ごとに学期末または学年末に行われる試験または研究報告等によって評価が行われ、成績と単位が認定される。成績評価は、100点満点で行われ、60点以上を合格とし、所定の単位修得が認められる。成績評価基準は、80点以上をA（優）、79点から70点をB（良）、69点から60点をC（可）、60点未満をD（不可）とする。成績証明書の成績表示は、優、良、可とする。

## V 学位論文審査基準

豊橋創造大学大学院健康科学研究科健康科学専攻修士課程 学位論文審査基準

### (審査体制)

#### 1. 学位授与審査申請

学位授与申請書および関連必要書類と共に、期日までに提出された修士論文は、研究科委員会にて修得単位数(修得見込みを含む)など修了要件を満たしていることを確認した上で、当該論文に対する論文審査および最終試験を実施する審査委員会を立ち上げる。

#### 2. 審査委員会

審査委員会は研究指導教員を主査とし、研究科委員会により選出された研究科所属教員2名を副査とする計3名の審査委員により構成する。なお、修士論文を直接指導した教員は、当該論文の審査委員には選任しない。

#### 3. 修士学位授与の判定

審査委員会は、修士論文の審査および最終試験の結果(論文の要旨、審査結果の要旨、最終試験結果の要旨、修士学位授与に値するか否かの意見)を研究科委員会に報告する。研究科委員会では、審査委員会の報告に基づいて、学位授与の可否を判定する。

### (評価項目)

#### 修士論文

1. 当該研究領域における修士としての十分な知識を修得し、問題を的確に把握しているか
2. 研究課題の設定が当該研究領域において妥当なものであり、当該研究領域に貢献する内容か
3. 論文の記述(本文、図表、引用文献など)が十分かつ適切であり、結論に至るまで論理的な構成になっているか
4. 設定した課題の研究に際して、適切な研究方法、調査・実験方法、あるいは論証方法を採用し、それに則って具体的な分析・考察がなされているか
5. 当該研究領域から見て、独創性あるいは新規性を有する論文となっているか
6. 研究の目的が達成されているか
7. 研究課題に関する文献検討が十分か
8. 今後の研究の必要性や方向性が述べられているか

#### 最終試験

1. 研究の背景や目的が明確か
2. 研究課題に関する知識が獲得され、整理されているか
3. 研究の進め方や研究方法について吟味されているか
4. 発表は論理的に分かりやすいか
5. 健康増進に係る健康科学分野の基本概念と当該研究領域に必要な知識を修得しているか

### (評価基準)

上記の評価項目すべてについて、修士学位論文として水準に達していると認められるものを合格とする。

## Ⅵ 学籍に関する諸手続きについて

学籍に関する事務手続きは、学生課が窓口となる。以下個別の事項について、大学院学則（以下学則という）に沿って解説する。

### 1. 在学期間：

学則により、大学院の最長在学年限は、4年とする。（学則第5条）

ただし、標準修業年限は2年であるが、職業を有している等の事情により、標準修業年限での教育課程の履修が困難な社会人を対象として、個別事情に応じて標準修業年限を超えて計画的に履修し、教育課程を修了により学位を取得することができる長期履修制度を適用する場合がある。

### 2. 休学・復学：

病気、その他の事由のため3ヶ月以上修学を中止しようとする場合は、休学の許可をとる必要がある。学則には「その事由を具して保証人連署のうえ休学を願い出て、学長の許可を得なければならぬ」とある。また、病気の場合には、医師の診断書が必要となる。

休学期間は半年または1年間とし、休学開始の時期は各学期の初めとする。休学期間中の学費は免除となる。休学期間は、通算して2年を超えることはできない。また、休学期間は在学期間には算入されない。

休学していた者が復学しようとする場合は、保証人連署のうえ願い出て学長の許可を得ること。ただし、病気のために休学していた場合は修学に支障のない旨の医師の診断書を添付すること。（学則第30条、31条、32条、33条）

### 3. 退学：

病気その他やむを得ない理由により退学しようとする場合は、保証人連署のうえ退学願いを学生証とともに提出し、学長の許可を得ること。（学則第34条）

### 4. 再入学：

本学を退学の場合でも、願い出て研究科委員会の議を経て許可されれば、再入学が認められる場合がある。この場合、再入学の時期は学年の初めとなる。（学則第36条）

### 5. 除籍：

次のいずれかに該当する者は研究科委員会の議を経て学長が除籍とする場合がある。

- (1) 授業料その他所定の学費を指定期日までに納入しない者
  - (2) 学則第5条に定める在学年限（4年）を超えた者
  - (3) 学則第32条に定める休学期間の限度を超え、なお就学できない者
  - (4) 長期間にわたり行方不明の者
- （学則第35条）

## 6. 留学：

本学の学生で、外国の大学院又はそれに準じる高等教育・研究機関等（以下「外国の大学院等」という）に留学を志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

許可を得て留学した者が、外国の大学院等で履修した授業科目について修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院において認定される。

(学則第 29 条)

## Ⅶ 学生生活上の諸事項について

諸手続きについては「スケジュールブック」を参照のこと。大学院生向けの事項は、基本的には学部 of 学生向けの事項を準用する。

## Ⅷ 大学院生の学校施設の利用について

大学院生には E 棟 1 階に専用の研究室が用意されている。この研究室には各人に専用の机と書庫が配備されており、各机には学内 LAN に接続できる情報コンセントも装備されている。各自割り当てられた机・書庫を使用すること。また、大学院生は、研究課題遂行のため、教員の指導の下で保健医療学部の有する設備・機器を利用できる。

なお、この研究室を利用するためには、入学時に配布されるセキュリティーカードが必ず必要になるため、常時、携帯するように心がけること。また、このカードにより、休日や夜間でも先生の研究室や大学院生専用研究室のエリアには出入りが可能になるが、下記の定められた範囲以外は立ち入りができないので注意のこと。万一、夜間に定められたエリア以外に立ち入ると防犯センサーが作動し、係員がかけつけるので注意のこと。

### 休日・夜間に大学院生が立ち入ることが可能な範囲

E 棟エレベータホール及び階段、E 棟 1 階大学院生研究室、E 棟 2 階、3 階、4 階および 5 階

大学院生は、図書館の 3 階の研究個室も利用することができる。個室を利用する場合は、図書館 2 階のカウンターに学生証を提示の上、利用の申し込みをして、部屋の鍵を受け取ること。利用後は必ず鍵を返却すること。

## 授業科目の紹介

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード	51010			
科目	5101 健康科学特論 I		授業種別	週間授業			
科目責任者	後藤 勝正		単位数	2 単位			
担当教員	後藤 勝正、金井 章						
授業概要	健康生活を支援するために必要な健康決定要因など健康科学に関する知識の修得に当たり、「心身機能・身体構造」について人の生活行動に関係の深い「運動系」「神経系」を中心に、基礎医学およびリハビリテーション学の視点から、健康の回復・維持・増進の支援に関する専門系知識を再構成し、「健康長寿」を追究するための基礎的知識を修得する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		○			
到達目標	本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」を目指して、以下の目標を設定する。 ①ホメオスタシスと可塑性とその意義について説明できる。 ②ヒトの歩行とその意義について説明できる。						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に設定しない。 必要に応じて、その都度指定する。
------------------------------	------------------------------

成績評価	レポートまたは口頭試問、提示した課題への取り組み状況から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
レポートまたは口頭試問	50%	事前学習課題等に関する質問への回答を評価する。
課題への取り組み	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。

受講条件	必修科目 履修条件はない。
事前・事後学修(内容・時間)	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(2時間程度 x 14回)。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	(後藤 勝正)
	第1回 (講義) ホメオスタシスとタンパク質の保護(双方向)
	第2回 (講義) 遺伝子発現と生体機能(双方向)
	第3回 (講義) 幹細胞と再生医学(双方向)
	第4回 (講義) 神経筋機能の適応(双方向)
	第5回 (講義) 骨格筋の可塑性(双方向)
	第6回 (講義) 宇宙生理学・医学(双方向)
	第7回 (講義) 加齢と寿命(双方向)
	第8回 (講義) 身体諸機能の老化と対策(双方向)
	(金井 章)
	第9回 (講義) 人の歩容の生理学(実務家教員・双方向)
	第10回 (講義) 観察による歩行分析(実務家教員・双方向)
	第11回 (講義) 歩行の運動科学(実務家教員・双方向)
	第12回 (講義) 歩行の脳・神経科学(実務家教員・双方向)
	第13回 (講義) 労働と腰痛(実務家教員・双方向)
第14回 (講義) 変形性股関節症の歩行(実務家教員・双方向)	
第15回 (講義) 変形性膝関節症の歩行(実務家教員・双方向)	
学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 レポートなどの課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。	
受講学生の専門領域や習熟度によって学習内容を変更することがある。	

科目ナンバリング	HSAL5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51020
科目	5102 健康科学特論Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	2 単位
担当教員	藤井 徹也、原沢 優子、蒔田 寛子、豊島 由樹子、富岡 美佳		

授業概要	健康科学特論Ⅰに引き続き、「健康の定義」「健康増進」「家族」「乳幼児と小児」「慢性看護」「高齢期」「認知機能」の視点から健康科学について構築し、さらに健康回復・維持・増進を支援する専門的知識を追求し、「健康長寿」を支援するための基礎的知識を修得する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		○		
到達目標	①健康とは何か定義づけ、解説できる。 ②障害と健康との関係を解説できる。 ③健康増進のための介入方法を理解し、説明できる。 ④ケアの対象者としての療養者と家族について説明できる。 ⑤地域包括ケアシステムを踏まえた法制度の改革とソーシャルキャピタル活用について説明できる。 ⑥高齢期の健康課題および認知機能低下と健康長寿への課題を説明できる。 ⑦子どもと家族の現状を踏まえた課題と子どもと家族の支援について説明できる。 ⑧慢性疾患を有する人とその家族に特有な健康問題と支援方法について説明できる。					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	講義時に適宜示す。
------------------------------	-----------

成績評価	各担当教員から、テーマを設定してレポートの提出を求める。提出されたレポート内容と受講態度で総合評価する。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	90%	レポート内容の完成度を確認する。
討論内容	10%	討論への主体的学修態度と内容を確認する。

受講条件	必修科目
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(4時間相当) 毎回の授業計画にそって、事前学修、事後学修をして臨むこと

授業の実施方法と授業計画	<p>(藤井徹也)</p> <p>第1回:健康の定義、健康と障害の関係(実務教員、双方向)</p> <p>第2回:健康増進のための介入方法(実務教員、双方向)</p> <p>第3回:わが国のまつわる健康問題と支援方法の現状(実務教員、双方向)</p> <p>(蒔田寛子)</p> <p>第4回:多様化する在宅ケアの対象と法制度の改革(実務家教員、双方向)</p> <p>第5回:ケアの対象者としての療養者と家族(実務家教員、双方向)</p> <p>第6回:地域包括ケアシステムにおけるソーシャルキャピタルの活用と課題(実務家教員 双方向)</p> <p>(原沢優子)</p> <p>第7回:サクセスフルエイジングの状態と健康長寿との関連(実務家教員、双方向)</p> <p>第8回:認知機能維持と健康長寿との関連(実務家教員、双方向)</p> <p>第9回:IoT活用による健康長寿への貢献(実務家教員、双方向)</p> <p>(豊島由樹子)</p> <p>第10回:慢性疾患を有する人に特有な健康問題と課題(実務教員、双方向)</p> <p>第11回:慢性疾患を有する人とその家族の支援につながる概念と制度(実務教員、双方向)</p> <p>第12回:地域包括ケアにおける専門職連携・協働(Inter Professional Collaboration)の概念と意義(実務教員、双方向)</p> <p>(富岡美佳)</p> <p>第13回:リプロダクティブヘルス/ライツからみた女性のライフサイクルにおける健康課題(実務家教員、双方向)</p> <p>第14回:出産と子育てを取り巻く環境の社会的変化と母子保健制度(実務家教員、双方向)</p> <p>第15回:愛着理論と家族の発達を基軸とした看護支援(実務家教員、双方向)</p> <p>講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、質疑・応答形式で進めて行く。また、授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSAL5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51050
科目	5105 障害回復支援理学療法論	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤 勝正	単位数	2単位
担当教員	後藤 勝正、小竹 伴照、辻村 尚子		

授業概要	現代医療におけるリハビリテーションと理学療法戦略の最新の動向を基に、理学療法における対象疾患の中心である運動器障害と神経系障害を中心に、これらの障害により生じる運動機能障害に対する治療・介入方法の歴史的考察、および最近の諸説と論点を理論的に統合し新たな実践体系を構築するための理論展開を図る。そのために障害者像、評価方法、各障害への取り組み方について再考しながら学修する。				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○	
到達目標	<p>本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」、「研究領域に関連する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探索する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持つ」、「人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につける」ことを目指す。そのために、以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器疾患・神経系疾患の病態を理解し、治療とリハビリテーションの方針を立てることができる。</li> <li>2. 運動器障害と中枢神経系障害の理学療法の評価方法と治療体系について最新の知見をもとに説明できる。</li> <li>3. 高齢者の運動生理を理解し、障害回復ための理学療法の方針を立てることができる。</li> </ol>				

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
加齢と運動の生理学	宮原 英夫	朝倉書店	4,800円	978-4254690446	

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	指定教科書は後藤担当分。 必要に応じて、その都度紹介する。
------------------------------	----------------------------------

成績評価	レポートまたは口頭試問、提示した課題への取り組み状況から総括評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
レポートまたは口頭試問	50%	事前学習課題等に関する質問への回答を評価する。
課題への取り組み	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。

受講条件	履修条件はない。
事前・事後学修(内容・時間)	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(2時間程度 x 14回)。

授業の実施方法と授業計画	(小竹 伴照)
	第1回 (講義) リハビリテーション医療に関する近年の変化Ⅰ(実務家教員・双方向)
	第2回 (講義) リハビリテーション医療に関する近年の変化Ⅱ(実務家教員・双方向)
	第3回 (講義) 廃用症候群について(実務家教員・双方向)
	第4回 (講義) 摂食嚥下障害に対するリハビリテーションⅠ(実務家教員・双方向)
	第5回 (講義) 摂食嚥下障害に対するリハビリテーションⅡ(実務家教員・双方向)
	(辻村 尚子)
	第6回 (講義) 障害回復支援理学療法と疫学研究(実務家教員・双方向)
	第7回 (講義) 運動器障害に対する理学療法の評価方法とその再考(実務家教員・双方向)
	第8回 (講義) 運動器障害に対する理学療法の治療体系とその再考(実務家教員・双方向)
	第9回 (講義) 中枢神経障害(脳血管疾患)に対する理学療法の評価方法とその再考(実務家教員・双方向)
	第10回 (講義) 中枢神経障害(脳血管疾患)に対する理学療法の治療体系とその再考(実務家教員・双方向)
	第11回 (講義) 中枢神経系障害(神経難病)に対する理学療法の評価方法、治療体系とその再考(実務家教員・双方向)
	第12回 (講義) 高齢期の虚弱に対する理学療法の評価方法とその再考(実務家教員・双方向)
	第13回 (講義) 高齢期の虚弱に対する理学療法の治療体系とその再考(実務家教員・双方向)
(後藤 勝正)	
第14回 (講義) 高齢者の運動生理(1)(双方向)	
第15回 (講義) 高齢者の運動生理(2)(双方向)	
学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。 レポートなどの課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。	
ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。	

科目ナンバリング	HSBM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期	授業コード	51060
科目	5106 病態運動学論	授業種別	週間授業
科目責任者	金井 章	単位数	2単位
担当教員	金井 章		

授業概要	<p>ヒトが日常生活を送る上で必要な各種動作を行うためには、各関節が協調的に機能することが重要となる。その中で筋は、関節運動における主要な役割を果たしていると同時に、関節へ力学的ストレスを与えている。そのような関節への生体力学的作用を理解し、リハビリテーションを行う上で問題となる運動器障害の病態と、各種動作に及ぼす影響について学ぶ。また、その効果的な機能再建方法について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○		
到達目標	<p>本講義では、ヒトの運動機能の障害となる関節の病態とそれによる動作への影響について理解し、臨床において適切に動作分析を行うための基礎的能力を修得することを目的として、到達目標を以下の通りとした。</p> <p>① ヒトの起居動作を運動学・運動力学により説明できる。 ② スポーツにおける身体運動を運動学・運動力学により説明ができる。 ③ 骨・関節・筋の力学特性を説明できる。 ④ 身体運動による関節への力学的ストレスを説明できる。 ⑤ 外傷による運動器障害の病態を説明できる。</p>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	適宜、講義テーマに関する総合討論から総括評価するが、その他詳細は第1回目の授業時に説明する。	
評価項目	割合	評価基準
レポートまたは口頭試問	50%	テーマに対する適切な内容を調べ、質問に対して適切に回答できるか確認する。
課題への取り組み	50%	提示した課題への取り組み状況から総括評価する。

受講条件	履修条件はない。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>1. 人の運動・動作について理解するための基礎となる、解剖学、生理学、運動学を再学習しておくこと(第1～15回/1時間程度)。</p> <p>2. 運動器疾患の病態についてまとめておくこと(第1～15回/1時間程度)。</p> <p>3. 講義で学んだ内容について、基礎医学、臨床運動学の視点から、その都度復習を行うこと(第1～15回/1時間程度)。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) 身体運動学と運動力学(実務家教員)</p> <p>第2回 (講義) 立位(実務家教員)</p> <p>第3回 (講義) 起居動作(実務家教員)</p> <p>第4回 (講義) 歩行(実務家教員)</p> <p>第5回 (講義) 走行、ジャンプ(実務家教員)</p> <p>第6回 (講義) 把握、投球(実務家教員)</p> <p>第7回 (講義) 骨・軟骨の力学特性(実務家教員)</p> <p>第8回 (講義) 筋・靭帯の力学特性(実務家教員)</p> <p>第9回 (講義) 外傷の力学(実務家教員)</p> <p>第10回 (講義) 下肢の損傷(実務家教員)</p> <p>第11回 (講義) 上肢の損傷(実務家教員)</p> <p>第12回 (講義) 脊椎の損傷(実務家教員)</p> <p>第13回 (講義) 人工関節、生体材料(実務家教員)</p> <p>第14回 (講義) 杖、装具(実務家教員)</p> <p>第15回 (講義) バイオメカニクス手法(実務家教員)</p> <p>受講学生の専門領域や習熟度によって学習内容を変更することがある。 授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSBM5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期・秋学期		授業コード	51080		
科目	5108 運動機能解析学特論		授業種別	週間授業		
科目責任者	金井 章		単位数	4 単位		
担当教員	金井 章					
授業概要	ヒトは、地球上で生活するからには重力から逃れることはできない。そのため、姿勢の保持や動作を行う場合には、重力に抗した身体の活動が必要となる。その機能は、老化や各種疾患により低下し、日常生活に多くの問題を引き起こす。本講義では、三次元動作解析装置や筋電図を用いた運動機能の解析と、その結果に基づいて姿勢や動作能力の改善を計るためのリハビリテーション手法を先行研究から学修する。また、研究実施に向けた研究計画の立案と方法の選択を行う。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	
到達目標	本授業では、ヒトの動作を分析し、問題点を抽出、対策を立案するための実践能力を修得する事を目的として、到達目標を以下の通りとした。 ① ヒトの歩行について説明できる。 ⑤ 研究目的を設定し、それに適合した計測の実施ができる。 ② 計ることの意味について説明できる。 ⑥ 計測結果を適切な方法で解析し、説明できる。 ③ 身体運動の計測手法について説明できる。 ⑦ 研究報告書を作成し、その結果を発表できる。 ④ 研究目的と計画立案のために適切な資料を集めることができる。					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
					特に設定しない	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
ヒトの動き百話 -スポーツの視点からリハビリテーションの視点まで-	小田伸午 他	市村出版	3,300円	978-4902109269		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

成績評価	課題発表(30%)、文献抄読(30%)、運動機能計測演習(30%)、総合討論(10%) から総括評価する。評価についての詳細は、第1回目の授業時に説明する。					
評価項目	割合	評価基準				
課題発表	30%	テーマに対して適切な内容を調べ、報告できるか確認する。				
文献抄読	30%	テーマに対して適切な文献を読み、まとめられているか確認する				
運動機能計測演習	30%	目的に合った方法を用いて適切な機器を使用し、結果を整理できるかを評価する				
総合討論	10%	ヒトの動作を分析し、問題点の抽出、最作の立案など適切な議論ができるかを評価する				

受講条件	受講条件は特いない					
事前・事後学修(内容・時間)	1. 人の運動・動作の計測から解析を行うために必要な基礎的知識である、解剖学、生理学、運動学について、再学習をして講義に臨むこと(第1～30回/30分)。 2. 講義内容に関連する学術論文を読み、提示できるようにまとめおくこと(第1～28回/60分)。 3. 講義で学んだことを実践できるように、学習内容の復習、データ解析手法の見直しと確認を行うこと(第2～28回/60分)。					

授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 基礎学習1: ヒトの進化(実務家教員) 第2回 (講義) 基礎学習2: 歩行の獲得(実務家教員) 第3回 (講義) 基礎学習3: 歩行によりもたらされたもの(実務家教員) 第4回 (講義) 計測法入門1: 計ることの意味(実務家教員) 第5回 (講義) 計測法入門2: 計測デザイン(実務家教員) 第6回 (講義) 計測法入門3: 姿勢と動作の計測(実務家教員) 第7回 (講義) 研究計画と手法の選択(実務家教員) 第8回 (講義) 臨床研究の基礎-研究倫理-手法(実務家教員) 第9回 (講義) 運動機能解析の基礎(実務家教員) 第10回 (講義・演習) 運動機能計測演習(グループワーク)(実務家教員・双方向) 第11回 (講義・演習) 運動機能計測演習(グループワーク)(実務家教員・双方向) 第12回 (講義・演習) 運動機能解析演習((グループワーク) 実務家教員・双方向) 第13回 (講義) 関連文献の収集と選択(実務家教員) 第14回 (講義・演習) 関連文献の抄読と討論(ディスカッション)(実務家教員・双方向) 第15回 (講義・演習) 関連文献の抄読と討論(ディスカッション)(実務家教員・双方向) 第16回 (講義) 研究目的の設定(実務家教員) 第17回 (講義・演習) 研究目的の妥当性の検討(ディスカッション)(実務家教員・双方向) 第18回 (講義) 研究計画の立案(実務家教員) 第19回 (講義・演習) 研究計画の妥当性の検討(ディスカッション)(実務家教員・双方向) 第20回 (講義) 実験方法の選択(実務家教員) 第21回 (講義・演習) 実験方法の妥当性の検討(ディスカッション)(実務家教員・双方向) 第22回 (講義) 実験結果の収集法(実務家教員) 第23回 (講義・演習) 実験結果の収集法の妥当性の検討(ディスカッション)(実務家教員・双方向) 第24回 (講義) 実験データの解析法(実務家教員) 第25回 (講義・演習) 実験データの解析: 統計的手法(ディスカッション)(実務家教員) 第26回 (講義・演習) 研究報告書の作成: 論文作成方法(ディスカッション)(実務家教員) 第27回 (講義・演習) 研究報告書の作成: 結果の提示(ディスカッション)(実務家教員) 第28回 (講義・演習) 研究報告書の作成: 考察と文献引用法(ディスカッション)(実務家教員) 第29回 (演習) 総合討論(プレゼンテーション)(実務家教員・双方向) 第30回 総合討論(議論)(実務家教員・双方向)  授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 受講学生の専門領域や習熟度によって学習内容を変更することがある。					
--------------	--	--	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSCM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期・秋学期	授業コード	51100
科目	5110 生体機能学特論	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤 勝正	単位数	4単位
担当教員	後藤 勝正		

授業概要	生体機能の科学的評価ならびにその評価に基づいた機能回復・維持・増進のための方策の計画・立案などに関する知識を学修する。特に、生体機能において主要な役割を果たしている骨格筋機能に焦点を当て、様々な刺激に対する応答から生活の質(QOL)および健康の維持増進に関連する先行研究を中心に比較検討し、総合的かつ専門的知識と技術を学修すると共に、研究実施に向けた研究計画の立案と方法の選択を行う。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	
到達目標	<p>本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」、「社会的な動向に関心を持ち、関連する領域の知見を抱合して、独創的で新しい視点を提起できる」、「研究領域に関連する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探索する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持つ」ことを目指す。そのために、以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究目的の設定ならびに研究計画の立案のために適切な資料を集めることができる。</li> <li>② 研究目的に適合した実験方法を選択し、その妥当性を説明できる。</li> <li>③ 研究目的に適合した実験データの解析を選択し、その妥当性を説明できる。</li> <li>④ 研究結果を発表し、その実験結果について議論できる。</li> <li>⑤ 研究報告書を作成できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に指定しない。その都度、紹介する。
------------------------------	--------------------

成績評価	レポートおよび口頭試問により評価する。評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	50%	提示したテーマに対して適切な内容を調べられるか評価する。
口頭試問	50%	授業内容を踏まえて、質問に対して適切に回答できるか評価する。

受講条件	特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(2時間程度x29回)。</p> <p>第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介知する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>設定したテーマについてゼミナール形式で授業を展開する。</p> <p>第1回(講義) 研究計画と手法の選択(双方向)  第2回(講義) 動物実験の基礎(研究倫理・手法)(双方向)  第3回(講義) ヒトを対象とした実験の基礎(研究倫理・手法)(双方向)  第4回(講義) 骨格筋機能の生理学的評価(双方向)  第5回(講義) 骨格筋機能の形態学的評価(双方向)  第6回(講義) 骨格筋機能の発現と遺伝子・タンパク質(双方向)  第7回(講義) 骨格筋機能低下①(損傷とその評価)(双方向)  第8回(講義) 骨格筋機能低下②(損傷とその再生)(双方向)  第9回(講義) 骨格筋機能向上①(機械的刺激に対する骨格筋機能の応答)(双方向)  第10回(講義) 骨格筋機能向上②(温熱刺激に対する骨格筋の応答)(双方向)  第11回(講義) 骨格筋機能低下リハビリテーション(双方向)  第12回(講義) 生体機能のリハビリテーション(双方向)  第13回(講義) 骨格筋機能とQOL(双方向)  第14回(演習) 関連文献の抄読と討論(生体外刺激に対する応答)(双方向)  第15回(演習) 関連文献の抄読と討論(atrophic刺激に対する応答)(双方向)  第16回(講義) 研究目的の設定(双方向)  第17回(演習) 研究目的の妥当性の検討(双方向)  第18回(講義) 研究計画の立案(双方向)  第19回(演習) 研究計画の妥当性の検討(双方向)  第20回(講義) 実験方法の選択(双方向)  第21回(演習) 実験方法の妥当性の検討(双方向)  第22回(講義) 実験結果の取集法(双方向)  第23回(講義・演習) 実験結果の取集法の妥当性の検討(双方向)  第24回(講義) 実験データの解析法(双方向)  第25回(講義) 実験データの解析(統計学的手法)(双方向)  第26回(講義・演習) 研究報告書の作成(論文作成方法)(双方向)  第27回(講義・演習) 研究報告書の作成(結果の提示:表および作図)(双方向)  第28回(講義・演習) 研究報告書の作成(考察と文献引用法)(双方向)  第29回(演習) 総合討論(プレゼンテーション)(双方向)  第30回(演習) 総合討論(議論)(双方向)</p> <p>学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナール形式で授業を行う。レポートなどの疑問については、授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p> <p>受講学生の専門領域や習熟度によって学習内容を変更することがある。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSCM5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期・秋学期		授業コード	51260	
科目	5126 在宅・家族看護学特論		授業種別	週間授業	
科目責任者	蒔田 寛子		単位数	4 単位	
担当教員	蒔田 寛子				
授業概要	世帯構造の変化と急激な少子高齢化、病院から在宅医療への移行の促進に伴い、高い専門性と倫理観を背景とした在宅看護の質向上が期待されている。在宅・家族看護学特論では、地域の中で療養している人と家族を包括的に捉え、安定した日常生活の維持に向けた在宅看護の役割と機能について学ぶとともに、在宅・家族看護学分野をふまえた基礎的な研究手法を修得する。※この科目は当該授業に関する看護の実務経験を有する教員がその経験を活かした講義等を行う科目である。				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅ケアが推進される社会背景について理解を深め、説明できる。</li> <li>2. 在宅看護学、家族看護学に関連する基礎知識の理解を深め、説明できる。</li> <li>3. 在宅看護学、家族看護学に関連する理論やモデル等について学び、それら知識を用いて現象を説明できる。</li> <li>4. 在宅看護学、家族看護学に関連した事例の検討により、対象の特徴と支援のあり方について深く検討できる。</li> <li>5. 在宅看護学、家族看護学における倫理的な課題について理解を深め、看護実践や研究遂行において反映した行動がとれる。</li> <li>6. 文献クリティークにより、在宅看護学、家族看護学の分野における研究課題、研究方法について学び、研究を実施する基礎的能力を獲得する。</li> <li>7. 課題テーマに関連した研究レビューにより、最新の研究動向を説明できる。</li> </ol>				

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項      テキストは特に設定しない。参考書および参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50%	文献を活用し論理的に資料が作成され、説明が適切かで評価する。
討論	30%	自分の意見を論理的に述べ、主体的に討議に参加しているかで評価する。
課題レポート	20%	課題に対して適切な内容が記述されているかで評価する。

受講条件	受講条件をつけない。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>予習復習の内容(毎回4時間相当)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。</li> <li>2. 毎回の授業計画に沿って事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う</li> <li>3. プレゼンテーション資料は専門職としての経験を踏まえ、文献を活用し作成する。</li> </ol>

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 オリエンテーション 在宅看護学の概念(実務家教員)</li> <li>第2回 在宅ケアの社会的背景 2040年問題と医療計画の方向性(実務家教員)</li> <li>第3回 地域包括ケアシステムと地域包括ケア時代における看護の役割(実務家教員)</li> <li>第4回 施策を踏まえた自治体のヘルスケアサービスの創造と看護の役割(実務家教員)</li> <li>第5回 社会格差と健康格差 社会環境づくりの創造的な取り組みと看護の役割(実務家教員)</li> <li>第6回 在宅看護の対象と看護の特徴(実務家教員)</li> <li>第7回 在宅看護における家族(実務家教員)</li> <li>第8回 在宅看護の事例検討 終末期がん療養者の在宅看護: 院生の提供事例をもとに終末期がん療養者の在宅看護について意見交換を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第9回 在宅看護の事例検討 寝たきり高齢者の在宅看護: 院生の提供事例をもとに寝たきり高齢者の在宅看護について意見交換を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第10回 在宅看護の事例検討 神経系障害療養者の在宅看護: 院生の提供事例をもとに神経系障害療養者の在宅看護について意見交換を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第11回 在宅看護の事例検討 医療的ケア児の在宅看護: 院生の提供事例をもとに医療的ケア児の在宅看護について意見交換を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第12回 在宅看護研究: 文献クリティーク 文獻1: 在宅看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第13回 在宅看護研究: 文献クリティーク 文獻2: 在宅看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第14回 在宅看護研究: 文献クリティーク 文獻3: 在宅看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第15回 在宅看護における倫理的課題(実務家教員)</li> <li>第16回 家族看護学発展の歴史(実務家教員)</li> <li>第17回 文化的背景と家族のありよう 家族の定義(実務家教員)</li> <li>第18回 現代の家族に関する課題(実務家教員)</li> <li>第19回 家族の成長発達 家族に関する理論: 家族発達理論(実務家教員)</li> <li>第20回 家族に関する理論: 家族システム理論 家族ストレス対処理論(実務家教員)</li> <li>第21回 家族アセスメントモデルの紹介(カルガリアー家族アセスメント/介入モデル 渡辺式家族アセスメント/支援モデル)(実務家教員)</li> <li>第22回 家族看護の事例検討 院生の提供事例(訪問看護事例1)について渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例検討を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第23回 家族看護の事例検討 院生の提供事例(訪問看護事例2)について渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例検討を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第24回 家族看護の事例検討 院生の提供事例(施設内看護事例1)について渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例検討を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第25回 家族看護の事例検討 院生の提供事例(施設内看護事例2)について渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例検討を行う(実務家教員・双方)</li> <li>第26回 家族看護研究: 文献クリティーク 文獻1: 家族看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第27回 家族看護研究: 文献クリティーク 文獻2: 家族看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第28回 家族看護研究: 文献クリティーク 文獻3: 家族看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第29回 家族看護研究: 文献クリティーク 文獻4: 家族看護に関する文献のクリティークを院生が発表し意見交換を行い、研究の動向や研究方法について理解を深める(実務家教員・双方)</li> <li>第30回 全体のまとめ 研究課題についてのディスカッション(実務家教員・双方)</li> </ol> <p>※授業内容と順序は、進度により変更することもあります。 ※授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSDM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期・秋学期	授業コード	512A0
科目	512A 実践看護技術学特論	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	4単位
担当教員	藤井 徹也		

授業概要	看護実践場面における看護行為を取り上げ、その行為を成立させている看護技術の原理・原則との関係性と看護技術の可能性を多面的に検討し、新たな看護技術の有効性を検証する方法について学修する。主に、「身体機能を支援するケア」、「フィジカルアセスメント」、「看護コミュニケーション」に関する看護技術に重点的に取り組む。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	
到達目標	1. 看護実践場面における看護行為と看護技術の原理・原則との関係を構造化し、看護技術がもつ意味を理解できる。 2. 看護技術の開発において、重視しなければならない看護の視点について検討できる。 3. 看護技術に必要な計測・測定技術の有効性および具体的な活用方法について、多面的に検討し、看護技術開発の有効性を検証できる。					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	---------------

成績評価	テーマを設定してレポートの提出を求める。提出されたレポート内容とプレゼンテーション内容と討論内容で総括評価する	
評価項目	割合	評価基準
レポート	55%	レポート内容の完成度を確認する
プレゼンテーション内容	30%	文献を活用した理論的な資料に基づいたプレゼンテーション内容を確認する
討論内容	15%	適切な討議を行うことができるかを確認する

受講条件	特になし
事前・事後学修(内容・時間)	講義内容についての事前・事後学修(4時間相当) 毎回の授業計画にそって、事前学修、事後学修をして臨むこと

授業の実施方法及び授業計画	第1回 オリエンテーション、学びの希望(実務1家教員) 第2回 身体機能を支援するケアの原理と応用①(実務家教員) 第3回 身体機能を支援するケアの原理と応用②(実務家教員) 第4回 身体機能を支援するケアの実際①(実務家教員) 第5回 身体機能を支援するケアの実際②(実務家教員) 第6回 身体機能を支援するケアの課題分析①(実務家教員) 第7回 身体機能を支援するケアの課題分析②(実務家教員) 第8回 身体機能を支援するケアの新たな技術的課題の検証①(実務家教員、双方向) 第9回 身体機能を支援するケアの新たな技術的課題の検証②(実務家教員、双方向) 第10回 身体機能を支援するケアの新たな技術的課題の検証③(実務家教員、双方向) 第11回 フィジカルアセスメントの原理と応用(実務家教員) 第12回 看護におけるフィジカルアセスメントの実際①(実務家教員) 第13回 看護におけるフィジカルアセスメントの実際②(実務家教員) 第14回 看護におけるフィジカルアセスメントの課題分析①(実務家教員、双方向) 第15回 看護におけるフィジカルアセスメントの課題分析②(実務家教員、双方向) 第16回 看護におけるフィジカルアセスメントの新たな技術的課題の検証①(実務家教員、双方向) 第17回 看護におけるフィジカルアセスメントの新たな技術的課題の検証②(実務家教員、双方向) 第18回 看護コミュニケーションの原理と応用(実務家教員) 第19回 看護コミュニケーションの実際①(実務家教員、双方向) 第20回 看護コミュニケーションの実際②(実務家教員、双方向) 第21回 看護コミュニケーションの課題分析①(実務家教員、双方向) 第22回 看護コミュニケーションの課題分析②(実務家教員、双方向) 第23回 看護コミュニケーションの課題分析③(実務家教員、双方向) 第24回 看護コミュニケーションの新たな技術的課題の検証(実務家教員、双方向) 第25回 看護技術開発に有効なデータ解析手法①(実務家教員) 第26回 看護技術開発に有効なデータ解析手法②(実務家教員) 第27回 看護技術に関する論文クリティーク①(実務家教員、双方向) 第28回 看護技術に関する論文クリティーク②(実務家教員、双方向) 第29回 看護技術に関する論文クリティーク③(実務家教員、双方向) 第30回 まとめ、現状の課題と研究課題のディスカッション(実務家教員、双方向)
	授業内容は、学修進度により変更することがある。また、授業内・授業時間外で質問を常時受け付、疑問に対する回答などフィードバックを行う。

科目ナンバリング	HSDM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期・秋学期	授業コード	512F0
科目	512F 慢性看護学特論	授業種別	週間授業
科目責任者	豊島 由樹子	単位数	4単位
担当教員	豊島 由樹子		

授業概要	慢性病が個人および家族の健康や生活に及ぼす影響について理解するとともに、慢性病者の思いや反応、行動特性を理解するための概念・理論について学び、慢性病をもちながら質の高い療養生活に向けて調整するための方策を検討する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DO3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な病気や障害の動向および慢性病が個人とその家族の健康や生活に及ぼす影響について説明できる。</li> <li>2. 慢性病者とその家族の思いや反応、行動特性を理解するうえで基盤となる概念・理論について説明できる。</li> <li>3. 慢性病のさまざまな変化する時期（急性増悪期、回復期、安定期、終末期）に対応した専門的看護支援について説明できる。</li> <li>4. 慢性病者とその家族の抱える倫理的な問題を理解し、意思決定を支える支援について考察を深める。</li> <li>5. 慢性病者とその家族の地域での生活を支える支援ネットワークについて説明できる。</li> <li>6. 複雑な問題を抱えて生活する慢性病者とその家族の、より質の高い療養生活に向けて調整するための方策について文献をもとに検討できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
クロニクウィルネス	Lubkin & Larson, 黒江ゆり子監訳	医学書院		978-426000581		
慢性疾患を生きる	Strauss, A. L. et al., 南裕子監訳	医学書院		978-4260348614		
看護実践に活かす中輪理論, 第3版	野川道子編	メヂカルフレンド社		978-4839216993		

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	授業の中で適宜紹介する。
------------------------------	--------------

成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成度で評価する。	
評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	50%	文献を活用して論理的に資料が作成され説明が適切かを評価する
課題レポート	50%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の講義内容について事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う。(各回4時間相当)。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回:社会の変化と慢性的な病気や障害の動向 (実務家教員)</li> <li>第2回:慢性病とともに生きるということ(慢性性) (実務家教員)</li> <li>第3回:慢性病とともに生きることに伴う多様な問題とその背景 (実務家教員)</li> <li>第4回:慢性病者の反応・行動の特徴(保健行動、病氣行動、病者役割等) (実務家教員)</li> <li>第5回:セルフケアおよび関連概念(Self-care, Self-management等) (実務家教員)</li> <li>第6回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論①自己効力理論 (実務家教員)</li> <li>第7回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論②病みの軌跡 (実務家教員)</li> <li>第8回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論③不確かさ (実務家教員)</li> <li>第9回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論④成人教育(アンドラゴジー) (実務家教員)</li> <li>第10回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論⑤ICFモデル (実務家教員)</li> <li>第11回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論⑥症状マネジメントモデル (実務家教員)</li> <li>第12回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論⑦ストレス・コーピング理論 (実務家教員)</li> <li>第13回:慢性病者の理解にかかわる概念・理論⑧協働的パートナーシップ理論 (実務家教員)</li> <li>第14回:慢性病者の急性増悪期における悪化リスク軽減に向けた支援 (実務家教員)</li> <li>第15回:慢性病者の回復期における生活の再獲得を促進する支援 (実務家教員)</li> <li>第16回:リハビリテーションを必要とする慢性病者への支援 (実務家教員)</li> <li>第17回:慢性病の発症・進展予防のための自己管理支援 (実務家教員)</li> <li>第18回:慢性病者と家族の意思決定における倫理的課題 (実務家教員)</li> <li>第19回:終末期にある慢性病者とその家族に対するエンドオブライフケア (実務家教員)</li> <li>第20回:終末期にある慢性病者とその家族に対する全人的ケア (実務家教員)</li> <li>第21回:終末期にある慢性病者とその家族に対する悲嘆・グリーフケア (実務家教員)</li> <li>第22回:慢性的な病気や障害をもつ人々を支える医療・福祉政策・制度 (実務家教員)</li> <li>第23回:地域包括ケアシステムにおける病院機能分化と機能連携 (実務家教員)</li> <li>第24回:ソーシャルサポートの概念・種類 (実務家教員)</li> <li>第25回:慢性病者とその家族の在宅療養移行に伴う支援 (実務家教員・双方)</li> <li>第26回:慢性病者とその家族の質の高い療養生活に向けての調整のあり方 (実務家教員・双方)</li> <li>第27回:慢性病とともに生きることを支える看護支援・事例検討 (実務家教員・双方)</li> <li>第28回:慢性病者とその家族に関する研究論文の文献クイズ① (実務家教員・双方)</li> <li>第29回:慢性病者とその家族に関する研究論文の文献クイズ② (実務家教員・双方)</li> <li>第30回:まとめ、研究課題についてのディスカッション (実務家教員・双方)</li> </ol> <p>授業内・授業時間外で質問を常時受け、課題についてもフィードバックを行う。 授業内容は、学修進度により変更することがある。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSDM5004
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期・秋学期	授業コード	512G0
科目	512G 母性看護・助産学特論	授業種別	週間授業
科目責任者	富岡 美佳	単位数	4単位
担当教員	富岡 美佳		

授業概要	母性・助産に関する現代的な課題をふまえて、母子を理解するための理論を用いて学修する。女性のライフサイクルにおける健康と発達課題を学び、文献を用いて看護・助産の実践について学修する。また、マタニティサイクルにある家族の発達について考察をし、必要な政策について学び、切れ目のない支援について提言する力を養成する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母性看護・助産学に関する現代的な課題を説明できる</li> <li>女性のライフサイクルにおける発達課題と支援について説明できる</li> <li>ウイメンズヘルスケアの視点からヘルスマセスメントが説明できる</li> <li>マタニティサイクルにある家族の発達を理論を用いて説明できる</li> <li>母性看護・助産学領域の国内外の文献をとおして、女性とその家族へのケアについて説明できる</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
特に指定しない						

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
必要に応じて適宜紹介する						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	プレゼンテーションとディスカッションの内容、課題レポートの内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	70%	
総合討論	30%	

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の講義には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、事前・事後学修は毎回4時間相当行う 毎回の授業計画にそって事前学修し、プレゼンテーション資料を作成する 授業後はディスカッション内容をふまえて事後学修を行う

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 母子保健の変遷と課題(実務家教員)</p> <p>第2回 リプロダクティブヘルスの課題と取り組み(実務家教員)</p> <p>第3回 ウイメンズヘルスケア(実務家教員)</p> <p>第4回 研究への応用としての理論①: エリクソン(実務家教員、双方向)</p> <p>第5回 研究への応用としての理論②: ピアジェ(実務家教員、双方向)</p> <p>第6回 研究への応用としての理論③: ボウルビー(実務家教員、双方向)</p> <p>第7回 研究への応用としての理論④: マーラー(実務家教員、双方向)</p> <p>第10回 研究への応用としての理論④: ルービン(実務家教員、双方向)</p> <p>第11回 母性看護・助産学領域の文献クリティーク①(実務家教員)</p> <p>第12回 母性看護・助産学領域の文献クリティーク②(実務家教員、双方向)</p> <p>第13回 母性看護・助産学領域の文献クリティーク③(実務家教員、双方向)</p> <p>第14回 母性看護・助産学領域の文献クリティーク④(実務家教員、双方向)</p> <p>第15回 母性看護・助産学領域の文献クリティーク⑤(実務家教員、双方向)</p> <p>第16回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(思春期)に関する文献クリティーク(実務家教員、双方向)</p> <p>第17回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性成熟期)に関する文献クリティーク(実務家教員、双方向)</p> <p>第18回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(更年期)に関する文献クリティーク(実務家教員、双方向)</p> <p>第19回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(老年期)に関する文献クリティーク(実務家教員、双方向)</p> <p>第20回 周産期に関する文献クリティーク①(実務家教員、双方向)</p> <p>第21回 周産期に関する文献クリティーク②(実務家教員、双方向)</p> <p>第22回 育児期に関する文献クリティーク③(実務家教員、双方向)</p> <p>第23回 育児期に関する文献クリティーク④(実務家教員、双方向)</p> <p>第24回 研究課題に関わる文献レビュー①(実務家教員、双方向)</p> <p>第25回 研究課題に関わる文献レビュー②(実務家教員、双方向)</p> <p>第26回 研究課題に関わる文献レビュー③(実務家教員、双方向)</p> <p>第27回 研究課題に関わる文献レビュー④(実務家教員、双方向)</p> <p>第28回 研究課題に関わる文献レビュー⑤(実務家教員、双方向)</p> <p>第29回 研究課題に関わる文献レビュー⑥(実務家教員、双方向)</p> <p>第30回 まとめ、現状との課題と研究課題(実務家教員、双方向)</p> <p>ただし、受講学生の学修進度により変更することがある *授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。課題レポート、プレゼンテーション・ディスカッションの内容については、授業内でフィードバックを行う。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSDM5005
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期・秋学期	授業コード	51210
科目	5121 高齢者看護学特論	授業種別	週間授業
科目責任者	原沢 優子	単位数	4単位
担当教員	原沢 優子		
授業概要	健康な高齢者および要介護や疾病治療中の高齢者への看護に関連する研究論文を精読・クリティック(批判的吟味)することを通して、高齢者看護に関連する研究動向と最新知識を修得する。対象とする高齢者研究の分野は、高齢社会、高齢者福祉、老年医学の分野を含む。また、研究を実施するための基礎力として、研究論文を公正に理解する力、研究を倫理的に計画・実施するための基礎知識を修得する。この科目は、当該授業に関する看護の実務経験を有する教員がその経験を活かして担当する科目である。		
ディプロマポリシー			
ディプロマポリシーとの関連性			
到達目標	・高齢者看護に関連する研究動向と最新知識を修得する。 ・研究論文を公正に理解する力、研究を正しく倫理的に計画・実施するための基礎知識を修得する。		

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に指定しないが、適宜、講義内で参考書籍を紹介する。講義内で使用する論文は、初回講義時に提示する。
------------------------------	---

成績評価	論文内容の理解度、文献レビューの精度、プレゼンテーション力・ディスカッション力を総合して評価する。欠席や課題の実実施は、減点対象とする。	
評価項目	割合	評価基準
小テスト	40%	抄読論文の内容の理解度を講義内で確認する。
レポート	30%	文献レビューの精度を確認する。
発表	30%	プレゼンテーションの具体性を評価する。

受講条件	1年次 所属領域の特論については必須、それ以外の学生には選択となる科目
事前・事後学修(内容・時間)	初回の講義時に提示した研究論文を読み、論文内容を理解およびクリティックし、文献レビューシートを作成する。文献レビューシートを使い、その研究内容を説明できる状態で講義に臨むこと。事後課題は、講義で指摘を受けた学習内容について実施すること。

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 イントロダクション、高齢者に関する研究分野と研究デザイン、課題論文の提示、文献シートの書き方</p> <p>第2回 研究倫理、研究者の倫理について</p> <p>第3回 【高齢者の身体機能維持への取り組みと成果】 1_1 サルコペニアの実態・関連要因</p> <p>第4回 1_2 サルコペニア予防と成果</p> <p>第5回 2_1 フレイルの実態・関連要因</p> <p>第6回 2_2 フレイル予防と成果</p> <p>第7回 3_1 低栄養の改善</p> <p>第8回 3_2 栄養評価方法と尺度 使い方・評価の違い</p> <p>第9回 4_1 スキンテアの実態とスキンテア研究の動向</p> <p>第10回 4_2 スキンテア予防と効果</p> <p>第11回 5_1 転倒要因</p> <p>第12回 5_2 転倒予防・評価尺度</p> <p>第13回 6_1 聴力低下の状況・関連要因</p> <p>第14回 6_2 聴力に関する研究動向</p> <p>第15回 高齢者の身体機能維持への取り組みと成果まとめと諸理論</p> <p>第16回 【高齢期に多い疾患への看護研究】 1 慢性腎不全高齢者への看護研究 2 睡眠障害のある高齢者への看護研究 第17回 3 高齢者のせん妄予防に関する研究 第18回 【高齢者の生活の質に貢献する研究】 1 長期療養施設のケア課題 第19回 2 グループホームのケア課題 第20回 3 認知症の高齢者への非薬物療法の効果 第21回 認知症の高齢者への非薬物療法の効果その2 第22回 4 スマート介護システムに関する研究 第23回 5 介護に使われるロボット・AI技術の効果 第24回 介護に使われるロボット・AI技術の効果その2 第25回 【高齢者研究にて開発された研究尺度と活用方法】 1 介護負担感、幸福感、健康観尺度と関連要因 第26回 2 多数あるQOL指標・評価している内容の理解 第27回 3 BPSDを計測する尺度の理解 第28回 4 ビックデータの活用研究 第29回 高齢者看護に関連する諸研究のまとめと高齢者看護研究への展開 第30回</p> <p>※本科目は、受講学生の専門領域や習熟度により学習内容を変更することがある。その際は、第1回の授業において説明する。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSDM1007
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51310
科目	5131 適応生理学論	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤 勝正	単位数	2 単位
担当教員	後藤 勝正		

授業概要	生体諸機能は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本講義では、生活の質（Quality of Life）や健康の維持増進において主要な臓器である骨格筋を対象に、様々な刺激（ストレス）に対する生体応答と適応機構に関する知識および予防医学から運動、疲労、休養など多角的な視点から健康を取り巻く総合的な知識を修得する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○		◎		
到達目標	<p>本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」、「研究領域に関連する知見を尊重する姿勢と新たな課題を探索する意欲を持ち、研究領域に関連する知識に関心を持つ」、「人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につける」ことを目指す。そのために、以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①細胞外刺激とその応答について、細胞内シグナル伝達から説明できる。</li> <li>②骨格筋、骨、心筋細胞、消化吸収機能の適応について説明できる。</li> <li>③骨格筋の可塑性とその仕組みを説明できる。</li> <li>④種々の環境に対する生体機能の適応を説明できる。</li> <li>⑤老化に伴う生体機能の変化を説明できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に設定しない。 その都度、紹介する。
------------------------------	------------------------

成績評価	レポートおよび口頭試問により評価する。 評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
レポート	50%	提示したテーマに対して適切な内容を調べられるか評価する。
口頭試問	50%	授業内容を踏まえて、質問に対して適切に回答できるか評価する。

受講条件	履修条件はない。
------	----------

事前・事後学修(内容・時間)	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(2時間程度 x 14回)。 第1回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。
----------------	--

授業の実施方法と授業計画	<p>設定したテーマについてゼミナル形式で授業を展開する。</p> <p>第1回 (講義・演習) 細胞外刺激と細胞応答(双方向)  第2回 (講義・演習) 細胞内シグナル伝達と細胞応答(双方向)  第3回 (講義・演習) 骨格筋の適応①(肥大を引き起こす要因)(双方向)  第4回 (講義・演習) 骨格筋の適応②(萎縮を引き起こす要因)(双方向)  第5回 (講義・演習) 骨格筋の疲労とその回復(双方向)  第6回 (講義・演習) 骨格筋の損傷と適応(双方向)  第7回 (講義・演習) 骨格筋の再生とそれに影響を及ぼす因子(双方向)  第8回 (講義・演習) 骨形成と骨吸収に及ぼす要因(双方向)  第9回 (講義・演習) 心筋細胞の収縮とエネルギー代謝(双方向)  第10回 (講義・演習) 消化吸収と身体活動(双方向)  第11回 (講義・演習) 骨格筋可塑性と筋衛星細胞(双方向)  第12回 (講義・演習) 運動・トレーニングによる生体機能の適応(双方向)  第13回 (講義・演習) 重力・宇宙環境と生体機能(双方向)  第14回 (講義・演習) 老化に伴う生体機能の変化とその対抗策(双方向)  第15回 (講義・演習) 骨格筋と組織幹細胞(双方向)</p> <p>学生に疑問や質問を投げかけ、学生からの回答に対してさらに答えるなどというやり取りをしながら、ゼミナル形式で授業を行う。 レポートなどの課題については、授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p> <p>受講学生の専門領域や習熟度によって学習内容を変更することがある。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSEM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51320
科目	5132 医療統計論	授業種別	週間授業
科目責任者	西川 浩昭	単位数	2 単位
担当教員	西川 浩昭		

授業概要	健康科学領域における統計処理で基礎となる問題の理解を深める。リハビリテーション学領域および看護学領域のデータ処理は、基礎的な統計手法だけではカバーしきれないことも多い。基礎的な統計学を中心に、並行してコンピュータの進歩とともに広がってきた新しい手法も取り上げながら健康科学関連データの処理について学習する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	○				○	
到達目標	①ガイダンス、正規分布の特徴を説明できる ②正規分布の標準化と標準正規分布表を活用できる ③対応のある2群データの母平均の差を検定できる ④対応のない2群データの母平均の差を検定できる ⑤2群データの母分散の差を検定できる ⑥分割表による検定について説明できる ⑦2変量及び多変量データの単回帰や重回帰等の数式を導き、結果について説明できる ⑧相関係数および偏相関係数の値を求め、結果について説明できる ⑨簡単な生存曲線の作成ができる ⑩統計試験に必要な標本サイズについて説明できる ⑩臨床試験の組み立て方等について説明できる					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	講義の際に適宜資料を配布する
------------------------------	----------------

成績評価	課題レポート: 授業では簡単なデータを利用した統計解析処理に関する演習を行うが、必要に応じて課題レポートの提出を求める場合がある。課題レポートの評価はその内容の完成度により行う。 なお、遅刻、早退、欠席および劣悪な授業態度は減点の対象となる場合がある。	
評価項目	割合	評価基準
課題レポート	100%	S: 90点~100点、A: 80点以上90点未満、B: 70点以上以上80点未満、C: 60点以上70点未満、D: 59点未満

受講条件	特になし。
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業について、予習・復習等の自己学習(学習時間: 4時間相当)を必ず行うこと。 ・授業内容は事前に資料等で確認しておくこと。(第2~第14回/2時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は自身で必ずチェックしておくこと。また、演習で取り扱った内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと。(第1~第15回/2時間相当)

授業の実施方法と授業計画	設定したテーマについてゼミナル形式で授業を展開する 第1回 基本統計量(1)(双方向) 第2回 基本統計量(2)(双方向) 第3回 正規分布(1) 正規分布の特徴(双方向) 第4回 正規分布(2) 正規分布データの解析(双方向) 第5回 統計学的仮説と有意性の検定(双方向) 第6回 分割表の検定(1)(双方向) 第7回 分割表の検定(2)(双方向) 第8回 相関係数と線形回帰式(双方向) 第9回 重回帰分析(双方向) 第10回 ロジスティック回帰(双方向) 第11回 カプラン・マイヤー法と生存曲線(双方向) 第12回 ログランク検定(双方向) 第13回 標本サイズ(双方向) 第14回 臨床試験(1) 臨床試験の基礎(双方向) 第15回 臨床試験(2) 臨床試験の種類と実際(双方向)
	受講学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。授業中に実施した演習課題はレポートとして提出し、その結果については次回授業の際に解説する。

科目ナンバリング	HSEM5008
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期	授業コード	51340
科目	5134 研究論	授業種別	週間授業
科目責任者	金井 章	単位数	2 単位
担当教員	金井 章、後藤 勝正、蒔田 寛子、藤井 徹也、加藤 知佳子		

授業概要	社会調査、実験的研究、疫学研究および質的研究の各種研究の持つ意味と目的を正しく理解するとともに、実際の研究を通して現状や問題点の把握、研究計画の立案、解決方策の探求ならびに課題のまとめ方を理論的に遂行する方法について学修する。					
------	---	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○		○		

到達目標	<p>各種研究の持つ意味と目的を正しく理解し、実践する能力を修得するため、到達目標を以下の通りとした。</p> <p>① リハビリテーション領域における実験的研究に関して説明できる。</p> <p>② 質的研究に関して説明できる。</p> <p>③ 社会調査の手法に関して説明できる。</p> <p>④ 看護領域における実験的研究に関して説明できる。</p> <p>⑤ 基礎領域における実験的研究に関して説明できる。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する各専門職の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>					
------	--	--	--	--	--	--

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					特に指定しない

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					その都度紹介する

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項					
------------------------------	--	--	--	--	--

成績評価	適宜、テーマを設定してレポートの提出、発表、討議を行い、その内容をもとに評価する。				
評価項目	割合	評価基準			
レポートまたは発表	50%	テーマについて適切にまとめて報告し、質問に対して適切に回答できるか確認する。			
課題への取り組み	50%	提示した課題への取り組み状況から総合的に評価する			

受講条件	履修条件はない。				
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(4時間相当) 1. 今までに自分が行った研究の手法について整理しておくこと 2. 各分野における論文を読み、研究手法について確認しておくこと 3. 講義で学んだ研究手法について整理し、まとめておくこと				

授業の実施方法と授業計画	<p>(金井 章)</p> <p>第1回(講義) 実験的研究とその実際(リハビリテーション研究1)(実務家教員)</p> <p>第2回(講義) 実験的研究とその実際(リハビリテーション研究2)(実務家教員)</p> <p>第3回(講義) 実験的研究とその実際(リハビリテーション研究3)(実務家教員)</p> <p>(蒔田 寛子)</p> <p>第4回(講義) 質的研究の基礎(質的研究とは 質的研究のプロセス)(実務家教員)</p> <p>第5回(講義) 質的研究における倫理的配慮 質的データの収集(質的面接法、フォーカスグループ、観察法)(実務家教員)</p> <p>第6回(演習) 主な質的研究と研究手法(質的記述的研究、グラウンテッド・セオリー、エスノグラフィー)(実務家教員・双方向)</p> <p>(加藤 知佳子)</p> <p>第7回(講義) 社会調査の概要</p> <p>第8回(講義・演習) 社会調査の実際(ディスカッション)(双方向)</p> <p>第9回(演習) 調査票・質問紙の作成(双方向)</p> <p>第10回(演習) 調査票・質問紙によるデータ収集と分析(プレゼンテーション・ディスカッション)(双方向)</p> <p>(藤井 徹也)</p> <p>第11回(講義) 実験的研究とその実際(看護研究1)(実務家教員)</p> <p>第12回(講義) 実験的研究とその実際(看護研究2)(実務家教員)</p> <p>第13回(講義) 実験的研究とその実際(看護研究3)(実務家教員)</p> <p>(後藤勝正)</p> <p>第14回(講義) 実験的研究とその実際(基礎研究1)(双方向)</p> <p>第15回(講義) 実験的研究とその実際(基礎研究2)(双方向)</p> <p>★それぞれ、課題について授業内で質疑に対するフィードバックを行う          ＊ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することがある</p>				
--------------	--	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSEM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度春学期	授業コード	51350
科目	5135 対人コミュニケーション論	授業種別	週間授業
科目責任者	加藤 知佳子	単位数	2単位
担当教員	加藤 知佳子		

授業概要	<p>私たち人間は、他のモノから同種の仲間であるヒトを峻別し、ヒトならではのコミュニケーションを行う。その過程には、視線、顔、音調などの非言語的情報だけでなく、音声言語・文字などの言語的情報によるものなど、さまざまな様式の情報処理過程を含む。その発達と障害・病態およびその脳内処理過程について、最新の知見も踏まえて講義するとともに、社会の人々の精神的健康を支援・増進するという立場から、現代社会における対人コミュニケーションの重要性と問題点について検討を行う。</p>					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	○	○		◎		
到達目標	<p>①コミュニケーションの構成要素を説明できる。          ②対人間でやりとりされる情報を列挙できる。          ③対人間でやりとりされる情報の発信と解釈に関する発達、性差、年齢差、文化差等について、説明できる。          ④対人コミュニケーションにかかわる障害およびその脳内過程について説明できる。          ⑤コミュニケーションそのものに関する問題とコミュニケーションを通して介入できる問題とを区別できる。          ⑥対人コミュニケーションに関して発生しやすい具体的な事例に対して、解決に向けて介入するための何らかの提案ができる。</p>					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
ヒトらしさとは何か 時代の心理学	ヴァーチャルリアリティ 北原靖子 他(編著)	北大路書房	2,640円	978-4762820519	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストおよびその他の参考文献は随時、指示・紹介する。
------------------------------	-----------------------------

成績評価	授業の到達目標に関する達成度によって評価する。	
評価項目	割合	評価基準
文献講読・討議への参加	40%	自発的、積極的な事前準備および討議に関する貢献度に応じて評価する。
課題レポート	60%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<p>予習・復習の内容(4時間相当)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で検討したい事例やケースについて、可能な限り準備しておく。</li> <li>・指定されたテーマについての論文をあらかじめ読んでおく。</li> <li>・学んだこと、気づいたことについて、レポートにまとめておく。</li> </ul>

授業の実施方法と授業計画	<p>設定したテーマについてゼミナール形式で授業を展開する。</p> <p>第1回 はじめに：コミュニケーションにおけるヒトとモノの相違(双方向)</p> <p>第2回 対人コミュニケーションが進化した背景(双方向)</p> <p>第3回 ヒト刺激によるコミュニケーション1:視覚的情報(視線、表情、仕草など)(双方向)</p> <p>第4回 ヒト刺激によるコミュニケーション2:聴覚その他のモダリティによる情報(音調、身体接触など)(双方向)</p> <p>第5回 ヒトがつくった刺激を介したコミュニケーション:言語的・非言語的情報(文字、視覚的シンボルなど)(双方向)</p> <p>第6回 対人コミュニケーションの動機:他者との認識の共有および他者の操作(双方向)</p> <p>第7回 対人コミュニケーションの発達1:誕生から成人まで(双方向)</p> <p>第8回 対人コミュニケーションの発達2:高齢者の場合(双方向)</p> <p>第9回 対人コミュニケーションの個人差1:性格・気質による違い(双方向)</p> <p>第10回 対人コミュニケーションの個人差2:相貌との関係(双方向)</p> <p>第11回 対人コミュニケーションの性差(双方向)</p> <p>第12回 対人コミュニケーションの障害と脳内過程(双方向)</p> <p>第13回 ケーススタディ1:対個人の場合(医療スタッフ間、医療スタッフと患者およびその家族とのコミュニケーション)(双方向)</p> <p>第14回 ケーススタディ2:対集団の場合(地域社会あるいは特定の病気や年齢層の人々とのコミュニケーション)(双方向)</p> <p>第15回 まとめ:現代社会における対人コミュニケーションの様相(双方向)</p> <p>ただし、受講学生の専門分野および習熟度により授業計画を変更することもある。また、質問は授業時間内・外で随時受け付け、対面あるいはメール等で質問に対する回答などのフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSEM5009
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51380
科目	5138 コンサルテーション論	授業種別	週間授業
科目責任者	桂川 純子	単位数	2単位
担当教員	桂川 純子		

授業概要	<p>本授業では、健康科学領域における専門家として看護師や理学療法士等が実践するコンサルテーションの理論と方法を学ぶ。専門職同士が対等な立場で協働し、対象者（患者・利用者）および組織の課題解決を支援するためのコンサルテーション能力の獲得を目的とする。コンサルテーションの基本概念、主要モデル（問題解決志向型、協働型、システム論的アプローチ等）を理解するとともに、看護・理学療法士の専門性を基盤とした役割の明確化、他職種との関係調整、倫理的配慮、エビデンスに基づく助言・介入の方法を検討する。さらに、病院・地域等の実践場面を想定した事例検討を通して、専門職としての判断力、説明力、調整力を高める。本授業を通じて、受講生が自身の専門性を活かしながら、組織やチームにおけるコンサルタントとして機能するための理論的基盤と実践的視点を養うことを目指す。</p> <p>※この科目は、当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその経験を活かし、講義等を行う科目である。</p>					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	◎		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンサルテーションの基本概念、理論について説明できる。</li> <li>2. コンサルテーションのプロセスおよび活動方法を踏まえ、コンサルタントとして求められる基本的態度を整理し説明できる。</li> <li>3. コンサルテーションにおいて、専門職として援助的人間関係を構築するための具体的方法について説明できる。</li> <li>4. 具体的な個人、グループ、組織へのコンサルテーションについて分析し、課題および支援方略について検討できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
プロセス・コンサルテーション—援助関係を築くこと	シャインE.H.(著)、 稲葉元吉・尾川丈一(訳)	白桃書房	4,400円	978-4561131403		

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは指定せず、授業内で関連文献・資料を適宜紹介する。
------------------------------	-------------------------------

成績評価	最終レポート、プレゼンテーション、討議への参加状況について総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
討議への参加状況	50%	自身の臨床経験を踏まえ、授業内容と関連づけながら主体的かつ建設的に討議へ参加しているかを評価する。
プレゼンテーション	25%	臨床場面をもとに、コンサルテーション理論を用いて内容を整理し、分かりやすく発表しているかを評価する。
最終レポート	25%	臨床経験または事例について、コンサルテーション理論に基づき適切な分析と考察を行っているかを評価する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<p>第1～10回：事前および授業内で配布された資料を精読し、コンサルテーションの理論・概念・方法を理解する。その理解を基に、実践への適応について考察する。授業内で理解度を確認する質問をすることがある。(各回3時間程度)</p> <p>第11～14回：授業内でのプレゼンテーションおよび討議に向けて準備を行う。必要に応じて教員にアポイントを取り、主体的に助言を受けながら資料作成や発表練習を進める。(自身の担当回について6時間程度、他受講者の担当回について各回3時間程度)</p> <p>第15回：これまでの学習・討議の内容を整理し、全過程の成果をまとめ、最終レポート作成につながる課題を挙げる。(6時間)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>コンサルテーションとは何か：教育、指導、心理療法、指導、との違い、非階層的関係。(双方向)(実務家教員)</p> <p>カプランのコンサルテーションモデル：4つの類型。(実務家教員)</p> <p>シャインのプロセス・コンサルテーション：対等なパートナーシップ、支援の在り方。(実務家教員)</p> <p>システム論的視点：組織をシステムとして読み解く。(実務家教員)</p> <p>レヴィンの「解冻・移動・再凍結」：組織が変化を受け入れるプロセス。(実務家教員)</p> <p>コミュニケーション理論：ダブルバインド、相補的/相斥的關係。対人距離のメカニズム。(双方向)(実務家教員)</p> <p>倫理と契約：二重関係の回避、守秘義務、アドホカーン。専門職としての倫理的構え。(双方向)(実務家教員)</p> <p>《技法①》カウセリングマインド：積極的傾聴、共感、コンサルティの自己効力感を高める関わり。(ワーク)(実務家教員)</p> <p>《技法②》問いの立て方と対話：謙虚な問い、情報の引き出し方とリフレーミング、SDM。(ワーク)(実務家教員)</p> <p>《技法③》戦略的提案と評価：エビデンスに基づく助言、合意形成のプロセス、介入効果の評価法。(双方向)(実務家教員)</p> <p>～14。(プレゼンテーション①)コンサルテーションの実際：事例検討(学生によるプレゼンテーション、ディスカッション)(実務家教員)</p> <p>15.まとめ(双方向)(実務家教員)</p> <p>※受講学生の専門領域や習熟度によって授業計画を変更することがある。 ※授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSEM5004
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	513F0
科目	513F ストレスマネジメント論	授業種別	週間授業
科目責任者	桂川 純子	単位数	2 単位
担当教員	桂川 純子		

授業概要	<p>本講義では、ストレスマネジメントに関する理論的枠組みを学ぶとともに、保健医療領域における実践的取り組みや専門職としての役割を理解する。また、最新の研究動向を通して、ストレスマネジメントに関する現代的課題を批判的に検討し、実践や研究への応用を考察する。</p> <p>※この科目は、当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその経験を活かし、講義等を行う科目である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	◎			
到達目標	<p>＜ol＞＜li＞ストレスマネジメントに関する基本的概念や理論を理解し、異なる理論の特徴や利点・限界を比較・評価できる。＜/li＞＜li＞主要なストレスマネジメントの方法や技法を理解し、対象や状況に応じた適切な介入方法を選択・分析できる。＜/li＞＜li＞医療専門職としての役割に基づき、職場や臨床現場におけるストレスマネジメントの対策・方法を批判的に評価できる。＜/li＞＜li＞現在の保健医療領域におけるストレスマネジメントの実践状況を把握し、特定の専門分野に関連した課題や改善の方向性を検討できる。</p>						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

成績評価	最終レポート、プレゼンテーション、討議への参加状況について総合的に評価する。					
評価項目	割合	評価基準				

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<p>第2～8回:事前・授業内で配布した資料の精読、理論・概念・方法を理解し、その適応について考察する。(各回2時間)</p> <p>第9～14回:授業内でプレゼンテーション、討議できるように準備する。準備において助言が必要な場合は、アポイントを取って主体的に相談する。(各回6時間程度)</p> <p>第15回:全過程での学修状況についてプレゼンテーションできるように準備し、最終レポート作成につなげる。(4時間)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、学生の関心のあるストレスマネジメントに関するテーマについて(双方向)(実務家教員)</p> <p>第2回 こころの健康とは(実務家教員)</p> <p>第3回 ストレスマネジメントにおける理論・概念の理解(実務家教員)</p> <p>第4～8回 ストレスマネジメントの方法と評価(ミニワーク)(実務家教員)</p> <p>(心身相関、認知行動療法、マインドフルネス、労働安全衛生法におけるストレスチェック、栄養と運動、ソーシャルサポート)</p> <p>第9～11回 ストレスマネジメントに関する研究の動向と課題(学生によるプレゼンテーション、ディスカッション)(実務家教員)</p> <p>第12～14回 健康に関するストレスマネジメントの実際(学生によるプレゼンテーション、ディスカッション)(実務家教員)</p> <p>第15回 まとめ(双方向)(実務家教員)</p> <p>※受講学生の専門領域や習熟度によって授業計画を変更することがある。 ※授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSEM5010
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51411
科目	5141 健康科学特別研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤 勝正	単位数	2 単位
担当教員	後藤 勝正		

授業概要	<p>生体は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な健康・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探索すると共に、生活の質（Quality of Life）や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研究ⅡからⅢへと順次展開する。</p>				
------	---	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		

到達目標	<p>本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」、「人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身に付ける」、「自らを設定した研究課題を、適切な方策を用いて追求し、得られた知見を論理的に表現する」ことを目指す。そのために以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。</li> <li>② 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。</li> <li>③ 研究を実施できる。</li> <li>④ 結果の吟味と考察できる。</li> <li>⑤ 修士論文を作成できる。</li> <li>⑥ 研究成果を発表し、討論できる。</li> </ol>				
------	--	--	--	--	--

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に設定しない。 必要に応じて、その都度紹介する。
------------------------------	------------------------------

成績評価	研究への取り組み、修士論文作成へ向けた進捗状況および総合討論から総括評価する。評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
進捗状況報告	50%	課題解決へ向けて、調査・実験計画が適切に確認する。
総合討論	50%	質問に対して適切に回答できるか確認する。

受講条件	履修条件はない。
事前・事後学修(内容・時間)	<p>課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(2時間程度 x 14回)。 第1回の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマを中心として関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、実験計画の立案、実験結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など学生の進捗状況に合わせて行う。(双方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○骨格筋機能の生理的・形態的評価</li> <li>○各種細胞外刺激と骨格筋の生理的・形態的適応</li> <li>○骨格筋損傷と再生</li> <li>○骨格筋機能とリハビリテーション—その評価と新規手法の開発—</li> <li>○骨格筋可塑性と遺伝子発現</li> <li>○骨格筋可塑性と筋衛星細胞</li> <li>○宇宙環境と生体機能の適応</li> <li>○特殊環境と生体機能の応答</li> <li>○骨格筋機能と生体機能との関係</li> <li>○生体諸機能の評価法の探求</li> <li>○QOLと生体機能</li> <li>○生体機能のリハビリテーション—その評価と新規手法の開発—</li> </ul> <p>以上のテーマならびに関連領域の課題について、実験を通して仮説を検証し、研究を健康科学特別研究ⅡおよびⅢと順次展開して、学位論文作成を目指す。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51412
科目	5141 健康科学特別研究 I	授業種別	週間授業
科目責任者	金井 章	単位数	2 単位
担当教員	金井 章		

授業概要	人は、日常生活において、立つ、座る、歩く、などの各動作を繰り返している。健康生活の維持・健康寿命の延伸のためには、これらの動作を行うための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復が必要であり、欠かすことが出来ない。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係わる課題の研究を計画、実施できるよう、以下の到達目標を設定する。 1. 関連する先行研究をまとめることができる 2. 適切な研究目的が設定できる 3. 目的に合った研究方法を選択するための予備的な実験を実施できる					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					特に設定しない

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					その都度紹介する

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	研究への取り組み(30%)、文献抄読(30%) および総合討論(40%) から総合評価する	
評価項目	割合	評価基準
研究計画状況	30%	適切な研究計画が立案されているかを確認する
文献抄読	30%	適切な文献を読み、まとめられているかを評価する
総合討論	40%	テーマについて十分な吟味を行い、質問に対して適切に回答できるかを確認する

受講条件	特に無い
事前・事後学修(内容・時間)	解剖学・生理学・運動学と動作分析手法について復習しておくこと(第1回～15回/60分程度) 2. ヒトの動作分析に係わる文献を読み、まとめておくこと(第1回～15回/60分程度) 3. 研究手法について吟味し、適切に実施できるか予備の実験を行うこと(第1回～15回/120分程度)

授業の実施方法と授業計画	以下のテーマを中心として関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の検討を行う。 なお、受講者の研究内容等により内容を変更することもある。(実務家教員) ○姿勢と動作の生体力学的検討 ○歩行の生体力学的検討 ○運動による関節ストレスの検討 ○動作と筋活動応答 ○シミュレーションによる障がい予測と予防 ○老化に伴う跨ぎと階段昇降動作の適応 ○転倒予防システムの開発 ○関節ストレス軽減装置の開発 ○運動機能回復リハビリテーションシステムの開発 ○運動機能のリハビリテーション—その評価と新規手法の開発— *授業内で適宜、質問や疑問に対するフィードバックを行なっていく。
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51413
科目	5141 健康科学特別研究I	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	2単位
担当教員	蒔田 寛子		

授業概要	看護の質を保证するために、看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な論理的方略を修得する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護学上あるいは臨床上の課題を見出し、自らの研究テーマに絞り込むことができる。</li> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果を体系的に整理し説明できる。</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文を吟味し、評価できる。</li> <li>研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる。</li> <li>研究計画書を具体的にかつ正確に作成できる。</li> <li>研究のすべての段階において、論理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> </ol>						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に設定しない。参考書および参考文献は必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	--------------------------------------

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション、討論内容から総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	40%	必要な学修の準備、研究課題への主体的な取り組み状況の評価する
プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション資料の内容を評価する
討論内容	20%	討論での意見、質問に対する受け答えを評価する

受講条件	在宅・家族看護学特論を履修していること。
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。毎回の授業計画に沿って事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う。プレゼンテーション資料は専門職としての経験を踏まえ、文献を活用し作成する。(各回4時間相当)

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>研究計画書の作成(修士論文計画発表会)(実務家教員 双方向)</li> <li>研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>データの収集(実務家教員)</li> <li>データの分析(実務家教員)</li> <li>データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナル形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、学生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、課題についてもフィードバックを行う。健康科学特別研究I～IIIの中で、上記1～11を院生の進捗状況に合わせて進める。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51414
科目	5141 健康科学特別研究I	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	2 単位
担当教員	藤井 徹也		

授業概要	看護の質を保障するために看護活動の改善が必要とされる看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な倫理的方略を修得する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護学上あるいは臨床上の課題を見出し、自らの研究テーマに絞り込むことができる。</li> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果を体系的に整理し説明できる。</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文を吟味し、評価できる。</li> <li>研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる。</li> <li>研究計画書を具体的にかつ正確に作成できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に設定しない。必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	研究への取り組み、討論内容から総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
講義・研究への取り組み	70%	主体的学修態度を確認する
討論	30%	討論での意見、受け入れを確認する

受講条件	実践看護技術学特論を受講していること
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修、事後学修の内容(4時間相当) 毎回の授業計画に沿って、事前学修、事後学修をして臨むこと

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>研究計画書の作成(第1・2回 修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>データの収集(実務家教員)</li> <li>データの分析(実務家教員)</li> <li>データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>1～11の一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、セミナール形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、学生の進捗状況に合わせて行う。健康科学特別研究I～Ⅲの中で、上記1～11を学生に合わせて進める。また、授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSFM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期		授業コード	51416			
科目	5141 健康科学特別研究I		授業種別	週間授業			
科目責任者	原沢 優子		単位数	2 単位			
担当教員	原沢 優子						
授業概要	看護学の発展に向けて、探求が必要とされる看護の対象者、看護活動の体制、看護の場のシステム等を考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の研究動向を体系的に理解し、課題解決に向けた研究計画の立案、データ収集および分析を行う。最新知見データに結果を照らして考察した上で、修士論文を作成・公表する。本科目は、この全過程を修得する。 看護研究に必要な論理的思考、倫理的態度を合わせて修得する。  ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		
到達目標	看護学上あるいは臨床上の研究課題を見出し、自らの研究テーマに絞り込める。						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
特に設定しない。						

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
必要に応じて適宜紹介する。						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション、討論内容から総合的に評価する。					
評価項目	割合	評価基準				
研究への取り組み	60%	必要な学修の準備、研究課題への主体的な取り組み状況を評価する				
プレゼンテーション	20%	プレゼンテーション資料の内容から充実度を評価する				
討論内容	20%	討論の広がり、深み、討議内容に対する関心などを評価する				

受講条件	高齢者看護学特論を履修していること。					
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。毎回の授業計画に沿って、事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う。(各回4時間相当)。					

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、セミナール形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 健康科学特別研究Ⅰ～Ⅲの中で、上記1～11を院生の進捗状況に合わせて行う。</p>					
--------------	---	--	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSFM5001					
----------	----------	--	--	--	--	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51417
科目	5141 健康科学特別研究Ⅰ	授業種別	週間授業
科目責任者	豊島 由樹子	単位数	2 単位
担当教員	豊島 由樹子		

授業概要	看護の質を保证するために、看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かす講義等を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護学上あるいは臨床上の課題を見出し、自らの研究テーマに絞り込むことができる。</li> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果を体系的に整理し説明できる。</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文を吟味し、評価できる。</li> <li>研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる。</li> <li>研究計画書を具体的にかつ正確に作成できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは特に設定しない。 参考書は必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション、討論内容から総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	40%	必要な学修の準備、研究課題への主体的な取り組み状況进行评估する
プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション資料の内容を評価する
討論内容	20%	討論での意見、質問に対する受け答えを評価する

受講条件	慢性看護学特論を履修していること。
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。 毎回の授業計画に沿って、事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う。(各回4時間相当)。

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>研究計画書の作成(修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>データの収集(実務家教員)</li> <li>データの分析(実務家教員)</li> <li>データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、セミナー形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け、課題についてもフィードバックを行う。 健康科学特別研究Ⅰ～Ⅲの中で、上記1～11を院生の進捗状況に合わせて行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51418
科目	5141 健康科学特別研究I	授業種別	週間授業
科目責任者	富岡 美佳	単位数	2単位
担当教員	富岡 美佳		

授業概要	看護の質を保証するために、看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見をふまえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な論理的方略を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護上あるいは臨床上の課題を見出し、自らの研究課題にしほり込むことができる</li> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果を体系的に整理し、説明できる</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文を吟味し、評価できる</li> <li>研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる</li> <li>研究計画書を具体的かつ正確に作成できる</li> </ol>						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
特に指定しない						

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
必要に応じて適宜紹介する						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション・討論内容から総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	70%	課題解決へ向けて、調査・実験計画が適切に確認する。
討論・プレゼンテーション	30%	質問に対して適切に回答できるか確認する。

受講条件	なし
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて自己学修を行う</li> <li>毎回の授業計画にそって事前学習、プレゼンテーション資料作成、事後の追加学修を行う</li> <li>事前・事後の学修では適切な文献を用いて活用する</li> </ol>

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究課題決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザイン選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書作成(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査申請(実務家教員)</li> <li>7. データ収集(実務家教員)</li> <li>8. データ分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文発表(実務家教員)</li> </ol> <p>1~11の一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、学生の進捗状況に合わせて行う。健康科学特別研究1~11を学生に合わせて進める。質問を常時受け付け、授業内・授業時間外にフィードバックする。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5001
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51421
科目	5142 健康科学特別研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤 勝正	単位数	4 単位
担当教員	後藤 勝正		

授業概要	健康科学特別研究Ⅰに引き続き、生体は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探索すると共に、生活の質（Quality of Life）や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能に関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を健康科学特別研究Ⅲへと順次展開する。				
------	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		

到達目標	本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」、「人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につける」、「自らが設定した研究課題を、適切な方策を用いて追究し、得られた知見を論理的に表現する」ことを目指す。そのため以下の到達目標を設定する。 ①研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。 ②適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。 ③研究を実施できる。 ④結果の吟味と考察できる。 ⑤修士論文を作成できる。 ⑥研究成果を発表し、討論できる。				
------	---	--	--	--	--

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に設定しない。 必要に応じて、その都度紹介する。
------------------------------	------------------------------

成績評価	研究への取り組み、修士論文作成へ向けた進捗状況および総合討論から総括評価する。評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。	
評価項目	割合	評価基準
進捗状況報告	50%	課題解決へ向けて、調査・実験計画が適切か確認する。
総合討論	50%	質問に対して適切に回答できるか確認する。

受講条件	履修条件はない。
事前・事後学修(内容・時間)	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(3時間程度×29回)。 第1回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマを中心として関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、実験計画の立案、実験結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など学生の進捗状況に合わせて行う。(双方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○骨格筋機能の生理的・形態的評価</li> <li>○各種細胞外刺激と骨格筋の生理的・形態的適応</li> <li>○骨格筋損傷と再生</li> <li>○骨格筋機能とリハビリテーション—その評価と新規手法の開発—</li> <li>○骨格筋可塑性と遺伝子発現</li> <li>○骨格筋可塑性と筋衛星細胞</li> <li>○宇宙環境と生体機能の適応</li> <li>○特殊環境と生体機能の応答</li> <li>○骨格筋機能と生体機能との関係</li> <li>○生体諸機能の評価法の探求</li> <li>○QOLと生体機能</li> <li>○生体機能のリハビリテーション—その評価と新規手法の開発—</li> </ul> <p>以上のテーマならびに関連領域の課題について、実験を通して仮説を検証する研究を健康科学特別研究Ⅰに引き続き、そして健康科学特別研究Ⅲへと展開して、学位論文作成を目指す。</p>				
--------------	---	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSFM5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51422
科目	5142 健康科学特別研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	金井 章	単位数	4 単位
担当教員	金井 章		

授業概要	人は、日常生活において、立つ、座る、歩く、などの各動作を繰り返している。健康生活の維持、健康寿命の延伸のためには、これらの動作を行うための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復が必要であり、欠かすことが出来ない。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究実践能力を修得するため、以下の通り到達目標を設定した。 1. 関連する先行研究をまとめることができる 2. 研究目的を達成するために、妥当な研究方法を設定できる 3. 適切な方法を用いて研究が実施できる					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					特に設定しない

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					その都度紹介する

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	
------------------------------	--

成績評価	研究への取り組み(30%)、文献抄読(30%)、および総合討論(40%) から評価する	
評価項目	割合	評価基準
研究実施状況	30%	適切な研究実施が行われているかを確認する
文献抄読	30%	適切な文献を読み、まとめられているかを確認する
総合討論	40%	テーマについて十分な吟味を行い、質問に対して適切に回答できるかを確認する

受講条件	特に無い
事前・事後学修(内容・時間)	病態運動学論について復習しておくこと(第1回～30回/60分程度) ヒトの動作分析に係る文献を読み、まとめておくこと(第1回～30回/60分程度) 研究手法について吟味し、適切に行う事が出来るか予備の実験を実施すること(第1回～30回/120分程度)

授業の実施方法と授業計画	以下のテーマを中心として関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の検討を行い、研究を実施する。(実務家教員) なお、受講者の研究内容等により内容を変更することもある。 ○姿勢と動作の生体力学的検討 ○歩行の生体力学的検討 ○運動による関節ストレスの検討 ○動作と筋活動応答 ○シミュレーションによる障がい予測と予防 ○老化に伴う跨ぎと階段昇降動作の適応 ○転倒予防システムの開発 ○関節ストレス軽減装置の開発 ○運動機能回復リハビリテーションシステムの開発 ○運動機能のリハビリテーション—その評価と新規手法の開発— *授業内で適宜、質問や疑問に対するフィードバックを行なっていく。
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51423
科目	5142 健康科学特別研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	豊島 由樹子	単位数	4 単位
担当教員	豊島 由樹子		

授業概要	看護の質を保証するために、看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かした講義等を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる。</li> <li>2. 研究計画書を具体的にかつ正確に作成できる。</li> <li>3. 研究のすべての段階において、倫理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> <li>4. 研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施できる。</li> <li>5. 研究計画に沿って、データを収集し、分析し、結果を論理的に考察できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは特に設定しない。 参考書は必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション、討論内容から総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	40%	必要な学修の準備、研究課題への主体的な取り組み状況进行评估する
プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション資料の内容を評価する
討論内容	20%	討論での意見、質問に対する受け答えを評価する

受講条件	慢性看護学特論、健康科学特別研究Ⅰを履修していること。
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。 毎回の授業計画に沿って、事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う。(各回4時間相当)。

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、セミナー形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、課題についてもフィードバックを行う。 健康科学特別研究Ⅰに引き続き、学位論文の完成にむけて上記1～11を院生の進捗状況に合わせて行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5002
----------	----------



開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51425
科目	5142 健康科学特別研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	4 単位
担当教員	蒔田 寛子		

授業概要	看護の質を保证するために看護活動の改善が必要とされる看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な論理的方法を修得する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かして講義等を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護学上あるいは臨床上の課題を見出し、自らの研究テーマに絞り込むことができる。</li> <li>研究課題に関連する分野の学問的成果を体系的に整理し説明できる。</li> <li>研究課題に関連する分野の先行研究論文を吟味し、評価できる。</li> <li>研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる。</li> <li>研究計画書を具体的にかつ正確に作成できる。</li> <li>研究のすべての段階において、論理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> <li>研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施する。</li> <li>研究計画に沿って、データを収集し、分析し、結果を論理的に考察できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に設定しない。参考書および参考図書は適宜紹介する。
------------------------------	--------------------------------

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション、討論内容から総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	40%	必要な学修の準備、研究課題への主体的な取り組み状況の評価する。
プレゼンテーション	40%	プレゼンテーション資料の内容を評価する。
討論内容	20%	討論での意見、質問に対する受け答えを評価する。

受講条件	在宅・家族看護学特論、健康科学特別研究Ⅰを履修していること。
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行うこと。毎回の授業計画に沿って事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行うこと。(各回4時間相当)

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心にを行い、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、課題についてもフィードバックを行う。健康科学特別研究Ⅰに引き続き、学位論文の完成に向けて健康科学特別研究Ⅰ～Ⅲの中で、上記1～11を院生の進捗状況に合わせて進める。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度春学期		授業コード	51427			
科目	5142 健康科学特別研究Ⅱ		授業種別	週間授業			
科目責任者	原沢 優子		単位数	4 単位			
担当教員	原沢 優子						
授業概要	看護学の発展に向けて、探求が必要とされる看護の対象者、看護活動の体制、看護の場のシステム等を考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の研究動向を体系的に理解し、課題解決に向けた研究計画の立案、データ収集および分析を行う。最新知見データに結果を照らして考察した上で、修士論文を作成・公表する。本科目は、この全過程を修得する。看護研究に必要な論理的思考、倫理的態度を合わせて修得する。この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		
到達目標	自らの研究テーマについて研究計画を立て、研究倫理審査を経て実施ができる。						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
特に設定しない。その都度、紹介する。						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

成績評価	研究への取り組み、プレゼンテーション、討論内容から総合的に評価する。					
評価項目	割合	評価基準				
研究への取り組み	80%	研究計画の作成に必要な学習、研究計画書の作成、倫理審査書類の作成、それらの取り組み状況から評価する				
討議過程	20%	討議への意欲、準備、応答などを評価する				

受講条件	高齢者看護学特論、健康科学特別研究Ⅰを受講していること					
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行うこと。例えば、毎回の授業計画に沿って事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行うこと。					

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p> <p>健康科学特別研究Ⅰに引き続き、学位論文の完成にむけて上記1～11を院生の進捗状況に合わせて行う。</p>					
--------------	---	--	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSFM5002					
----------	----------	--	--	--	--	--

開講年度・開講学期	2026 年度春学期	授業コード	51428
科目	5142 健康科学特別研究Ⅱ	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	4 単位
担当教員	藤井 徹也		

授業概要	看護の質を保证するために看護活動の改善が必要とされる看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な倫理的方法を修得する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学上あるいは臨床上の課題を見出し、自らの研究テーマに絞り込むことができる。</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の学問的成果を体系的に整理し説明できる。</li> <li>3. 研究課題に関連する分野の先行研究論文を吟味し、評価できる。</li> <li>4. 研究課題を追究するのにふさわしい研究デザインを選択できる。</li> <li>5. 研究計画書を具体的にかつ正確に作成できる。</li> <li>6. 研究のすべての段階において、倫理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> <li>7. 研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施できる。</li> <li>8. 収集したデータを分析できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	研究への取り組みと進捗状況、討論内容を総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
講義・研究への取り組み	80%	講義に必要な学修の準備、研究への取り組み状況で評価する。
討論・総合討論	20%	討論での意見、受け答えについて評価する。

受講条件	特になし
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修、事後学修として指定された内容(4時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマについて関連する先行研究を収集・クリティークし、適切な研究目的の設定と方法の検討、研究の実施、結果の分析を行う。(実務家教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術の開発、検証に関するテーマ</li> <li>・看護技術教育に関するテーマ</li> <li>・フィジカルアセスメントの実践、教育的介入に関するテーマ</li> <li>・看護コミュニケーションに関するテーマ</li> <li>・看護技術とジェンダーに関するテーマ</li> </ul> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、セミナー形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、学生の進捗状況に合わせて行う。また、授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSFM5002
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51431
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	後藤 勝正	単位数	6単位
担当教員	後藤 勝正		

授業概要	健康科学特別研究ⅠおよびⅡに引き続き、生体は、種々の刺激（ストレス）を受容し、それに応答・適応する。さらに、発育・発達・成熟・老化や様々な疾病・疾患により生体の機能は大きく変容する。本特別研究では、骨格筋を主たるターゲットとし、骨格筋機能に関連する様々な生体機能とそれらに影響を与える因子を探索すると共に、生活の質（Quality of Life）や健康を維持増進していくために必要な生体応答に関する総合的な課題についての研究指導を行う。実際の研究活動を通して、生体機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能に関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法を選択し、関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。					
------	---	--	--	--	--	--

ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		

到達目標	<p>本授業では、主として「健康増進に係る健康科学分野の基本概念と研究領域に必要な知識の修得」、「人々の健康に携わる一員としての自覚を持ち、健康寿命の延伸に貢献しようとする態度を身につける」、「自らが設定した研究課題を、適切な方策を用いて追究し、得られた知見を論理的に表現する」ことを目指す。そのため以下の到達目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 研究テーマ候補を選択し、関連する先行研究を収集できる。</li> <li>② 適切な研究目的の設定と方法の選択ができる。</li> <li>③ 研究を実施できる。</li> <li>④ 結果の吟味と考察できる。</li> <li>⑤ 修士論文を作成できる。</li> <li>⑥ 研究成果を発表し、討論できる。</li> </ol>					
------	---	--	--	--	--	--

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に指定しない。 必要に応じて紹介する。
------------------------------	-------------------------

成績評価	研究への取り組み、修士論文作成へ向けた進捗状況および総合討論および修士論文の審査の評価から総合評価する。評価についての詳細は、第1回目の授業において説明する。					
評価項目	割合	評価基準				
修士論文	80%	修士論文が適切に記載・提出されているか確認する。				
総合討論	20%	質問に対して適切に回答できるか確認する。				

受講条件	履修条件はない。
事前・事後学修(内容・時間)	課題を設定するので、文献検討や実験などにより調べる(2時間程度×4回)。 第1回目の授業時に、学習に必要な参考文献などを紹介する。準備学習や授業外学修事項については、必要に応じて授業中に指示する。

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマを中心として関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、実験計画の立案、実験結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など学生の進捗状況に合わせて行う。(双方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○骨格筋機能の生理的・形態的評価</li> <li>○各種細胞外刺激と骨格筋の生理的・形態的適応</li> <li>○骨格筋損傷と再生</li> <li>○骨格筋機能とリハビリテーション—その評価と新規手法の開発—</li> <li>○骨格筋可塑性と遺伝子発現</li> <li>○骨格筋可塑性と筋衛星細胞</li> <li>○宇宙環境と生体機能の適応</li> <li>○特殊環境と生体機能の応答</li> <li>○骨格筋機能と生体機能との関係</li> <li>○生体諸機能の評価法の探求</li> <li>○QOLと生体機能</li> <li>○生体機能のリハビリテーション—その評価と新規手法の開発—</li> </ul> <p>以上のテーマならびに関連領域の課題について、実験を通して仮説を検証する研究を健康科学特別研究ⅠおよびⅡに引き続き学位論文作成を目指す。</p>					
--------------	---	--	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSFM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51432
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	金井 章	単位数	6単位
担当教員	金井 章		

授業概要	<p>人は、日常生活において、立つ、座る、歩く、などの各動作を繰り返している。健康生活の維持、健康寿命の延伸のためには、これらの動作を行うための筋骨格系運動機能の増進・維持・回復が必要であり、欠かすことが出来ない。そのため、3次元運動解析技術を用いて各種動作を生体力学的に分析し、運動障がい成立機序や運動障がい回復のためのリハビリテーション技術に係る課題の研究指導を行う。実際の研究活動を通して、運動機能の回復・維持・増進のための方策の計画・立案についての専門的知識や技能を関連する新たな知識を追求する。関連する先行研究を収集、適切な研究目的の設定と方法の選択、研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する理学療法士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連する先行研究をまとめることができる</li> <li>2. 研究結果について整理し、適切な統計処理を行う事ができる</li> <li>3. 研究の結果を考察し、修士論文をまとめることができる</li> </ol>						

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					特に設定しない

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考
					その都度紹介する

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項

成績評価	研究への取り組み、総合討論および修士論文から総括評価する	
評価項目	割合	評価基準
総合討論及び修士論文	100%	研究について適切に考察し、修士論文が適切にまとめられているかを確認する

受講条件	特に無い
事前・事後学修(内容・時間)	<p>研究結果を整理し、提示できるようまとめること(第1回～45回/60分程度) 統計手法について復習し、適切な統計解析を行うこと(第1回～45回/60分程度) 総合討論に基づき修士論文を適切に修正すること(第1回～45回/120分程度)</p>

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマを中心として関連する先行研究を収集、適切な研究の実施、結果の吟味と考察、総合討論、そして修士論文の作成という研究を展開する。(実務家教員) なお、受講者の研究内容等により内容を変更することもある。 ○姿勢と動作の生体力学的検討 ○歩行の生体力学的検討 ○運動による関節ストレスの検討 ○動作と筋活動応答 ○シミュレーションによる障がい予測と予防 ○老化に伴う跨ぎと階段昇降動作の適応 ○転倒予防システムの開発 ○関節ストレス軽減装置の開発 ○運動機能回復リハビリテーションシステムの開発 ○運動機能のリハビリテーション—その評価と新規手法の開発— *授業内で適宜、質問や疑問に対するフィードバックを行なっていく。</p>
--------------	---

科目ナンバリング	HSFM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期		授業コード	51434			
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ		授業種別	週間授業			
科目責任者	原沢 優子		単位数	6 単位			
担当教員	原沢 優子						
授業概要	看護学の発展に向けて、探求が必要とされる看護の対象者、看護活動の体制、看護の場のシステム等を考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の研究動向を体系的に理解し、課題解決に向けた研究計画の立案、データ収集および分析を行う。最新知見データに結果を照らして考察した上で、修士論文を作成・公表する。本科目は、この全過程を修得する。 看護研究に必要な論理的思考、倫理的態度を合わせて修得する。  ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		
到達目標	自らの研究テーマについて研究計画に基づいてデータ収集・分析し、その結果を修士論文として公表できる。						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

成績評価	論文内容、討論内容から総合的に評価する					
評価項目	割合	評価基準				
論文内容と発表	80%	論文の一貫性と論理性、文章の明瞭さ、発表の適切さを評価する。				
討議過程の内容	20%	討論されている内容について自らの意見、疑問点を持ち発言できているかを確認する。				

受講条件	健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱを受講していること					
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行うこと。例えば毎回の授業計画にそって事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後学修を行い臨むこと。					

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。 課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。 健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱに引き続き、学位論文の完成をめざす。</p>					
--------------	--	--	--	--	--	--

科目ナンバリング	HSFM5003					
----------	----------	--	--	--	--	--

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51435
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	富岡 美佳	単位数	6 単位
担当教員	富岡 美佳		

授業概要	看護の質を保証するために、看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見をふまえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な論理的方法を修得する。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のすべての過程において、倫理的に妥当で適切に行動できる</li> <li>2. 研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施できる</li> <li>3. 研究計画にそってデータを収集し、分析し、結果を論理的に考察できる</li> <li>4. 修士論文を作成できる</li> <li>5. 修士論文を学内で発表し、討論できる</li> </ol>					

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
特に指定しない						

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	
必要に応じて適宜紹介する						

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	研究への取り組みと進捗状況、討論内容、修士論文内容を総合的に評価する	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	10%	
総合討論	20%	
論文内容	70%	

受講条件	母性看護・助産学特論、健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱを受講していること
事前・事後学修(内容・時間)	事前・事後学修として指定された内容(4時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマについて関連する研究の実施、結果の分析・考察、討論、修士論文の作成を行う(実務家教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性とその家族への健康支援</li> <li>・周産期の母子に関する母性・助産技術の開発と看護・助産ケアについてのテーマ</li> <li>・女性のライフサイクルに応じた健康支援に関するテーマ</li> <li>・プレコンセプションケアに関する教育についてのテーマ</li> <li>・ジェンダーに関するテーマ</li> <li>・母性看護・助産技術の検証、開発に関するテーマ</li> <li>・母性看護・助産学教育の検証、開発に関するテーマ</li> </ul> <p>一連の研究過程をとおして、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、学生の進捗状況に合わせて行う。</p> <p>論文や討論の内容については、授業内でフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51436
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	蒔田 寛子	単位数	6 単位
担当教員	蒔田 寛子		

授業概要	看護の質を保证するために看護活動の改善が必要とされる看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な論理的方法を修得する。※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のすべての段階において、論理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> <li>2. 研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施できる。</li> <li>3. 研究計画に沿って、データを収集し、分析し、結果を論理的に考察できる。</li> <li>4. 修士論文を作成できる。</li> <li>5. 修士論文を学内で公表し討論できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	教科書は特に設定しない。参考書および参考文献は必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	--------------------------------------

成績評価	研究への取り組み、論文内容、発表と討論内容により総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
論文内容	80%	論文の内容に一貫性があり論理的であるか、文章表現は適切か等論文の完成度を評価する。
討論内容	20%	討論されている内容について自らの意見、疑問点を持ち発言できているか評価する。

受講条件	在宅・家族看護学特論、健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱを履修していること。
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行うこと。毎回の授業計画にそって事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後学修を行う。(各回4時間相当)

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け付け、課題についてもフィードバックを行う。健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱに引き続き、学位論文の完成を目指す。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026年度秋学期	授業コード	51437
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	藤井 徹也	単位数	6単位
担当教員	藤井 徹也		

授業概要	看護の質を保証するために看護活動の改善が必要とされる看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。さらに、看護研究に必要な倫理的方略を修得する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のすべての段階において、倫理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> <li>2. 研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施できる。</li> <li>3. 研究計画に沿って、データを収集し、分析し、結果を論理的に考察できる。</li> <li>4. 修士論文を作成できる。</li> <li>5. 修士論文を学内で発表し、討論できる。</li> </ol>						

テキスト(教科書)						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

参考書および参考文献						
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考	

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	-----------------------

成績評価	研究への取り組みと進捗状況、討論内容、修士論文内容を総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
研究への取り組み	5%	講義に必要な学修準備、研究への取り組み状況で評価する
討論。総合討論	15%	討論での意見、受け答えについて評価する
論文内容	80%	論文の完成度を確認する

受講条件	実践看護技術学特論、健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱを受講していること
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修、事後学修として指定された内容(4時間程度)

授業の実施方法と授業計画	<p>以下のテーマについて関連する研究の実施、結果の分析・考察、討論、修士論文の作成を行う。(実務家教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護技術の開発、検証に関するテーマ</li> <li>・看護技術教育に関するテーマ</li> <li>・フィジカルアセスメントの実践、教育的介入に関するテーマ</li> <li>・看護コミュニケーションに関するテーマ</li> <li>・看護技術とジェンダーに関するテーマ</li> </ul> <p>一連の研究過程を通して、修士論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、修士論文の作成は、セミナー形式によるグループディスカッションを中心に行い、必要に応じて個別指導など、学生の進捗状況に合わせて行う。また、授業内・授業時間外で質問を常時受け、疑問に対する回答などフィードバックを行う。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HFSM5003
----------	----------

開講年度・開講学期	2026 年度秋学期	授業コード	51438
科目	5143 健康科学特別研究Ⅲ	授業種別	週間授業
科目責任者	豊島 由樹子	単位数	6 単位
担当教員	豊島 由樹子		

授業概要	看護の質を保障するために、看護の対象や活動の場の特徴に応じた看護活動について考察し、自らの研究課題を明確にする。研究課題に関連する分野の学問的体系を理解し、実践的な研究計画を立案し、最新の知見を踏まえてデータを分析し、修士論文を作成して公表する過程を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かす講義等を行う科目である。					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究のすべての段階において、倫理的に妥当で適切な行動をとることができる。</li> <li>2. 研究計画は本学の倫理委員会の承認を得てから実施できる。</li> <li>3. 研究計画に沿って、データを収集し、分析し、結果を論理的に考察できる。</li> <li>4. 修士論文を作成できる。</li> <li>5. 修士論文を学内で発表し、討論できる。</li> </ol>					

テキスト(教科書)					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

参考書および参考文献					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別/備考

テキスト(教科書)、参考書および参考文献に関する特記事項	テキストは特に設定しない。 参考書は必要に応じて適宜紹介する。
------------------------------	------------------------------------

成績評価	論文内容、討論内容から総合的に評価する。	
評価項目	割合	評価基準
論文内容	80%	論文の完成度を評価する
討論内容	20%	討論での意見、質問に対する受け答えを評価する

受講条件	慢性看護学特論、健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱを履修していること。
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえて、自己学修を行う。毎回の授業計画に沿って、事前学修、プレゼンテーション資料の作成、事後の追加学修を行う。(各回4時間相当)。

授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関連する分野の学問的成果の整理(実務家教員)</li> <li>2. 研究課題に関連する分野の先行研究論文の吟味と評価(実務家教員)</li> <li>3. 研究テーマの決定(実務家教員)</li> <li>4. 研究デザインの選定(実務家教員)</li> <li>5. 研究計画書の作成(修士論文検討会)(実務家教員)</li> <li>6. 研究倫理審査の申請(実務家教員)</li> <li>7. データの収集(実務家教員)</li> <li>8. データの分析(実務家教員)</li> <li>9. データの解釈と考察(実務家教員)</li> <li>10. 課題研究論文の作成(実務家教員)</li> <li>11. 研究論文の発表(実務家教員)</li> </ol> <p>一連の研究過程を通して、学位論文作成を目指す。課題の探求、研究計画立案、結果の吟味、学位論文の作成は、ゼミナール形式によるグループディスカッションを中心に、必要に応じて個別指導など、院生の進捗状況に合わせて行う。授業内・授業時間外で質問を常時受け、課題についてもフィードバックを行う。 健康科学特別研究Ⅰ・Ⅱに引き続き、学位論文の完成をめざす。</p>
--------------	--

科目ナンバリング	HSFM5003
----------	----------



卷 末



平成 17 年 4 月 1 日制定

#### 【個人情報保護に関する方針】

本学では、あらゆる場合において多くの個人情報に接しております。本学では、これらの個人情報の取得、保存、利用、処分等にあたり個人情報保護法等関連法令の遵守だけでなく本学に「個人情報の保護に関する規程」を制定し、その保護に万全を期すことをここに宣言します。

#### 【本学における個人情報の取り扱い】

個人情報は、個人の人格に係わる重要な情報であり、氏名、生年月日、住所、電話番号、その他の記述、又は個人別に付けられた番号、記号、その他の符号、画像若しくは音声によって当該個人を識別できるものをいいます。これらの個人情報を業務上使用する場合は、提供いただいた理由ないし目的の範囲内で、適切に取り扱います。また、目的外に使用する場合は、事前に本人若しくは正当な代理人の了承を得ることを原則とします。

#### 【安全性の確保】

個人情報は、安全な場所に保管し管理します。また不要になった個人情報は、適切な方法で確実に廃棄又は消去します。

#### 【法令及びその他の規範の遵守】

個人情報を取り扱う教職員は、個人情報に関する法令や本学規程を遵守するとともに、規範を守るための責任及び違反した場合の措置を周知する手順を確立し実施します。

#### 個人情報の取り扱いに関するお問い合わせ先

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部

個人情報保護委員会 [privacy@sozo.ac.jp](mailto:privacy@sozo.ac.jp)

個人情報保護法施行に伴い、学生等は大学が保有する個人情報に対し、開示、訂正、利用停止等を求めることができます。相談等は、事務局窓口で行うことができます。

## 豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部における個人情報の取り扱いについて

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部では、個人情報の保護に関する法律が平成17年4月1日施行されて以来、学内諸規程等を整備し、関係法令を遵守しながら、本学在学生及びその保護者等（以下「在学生等」と記します）に関する個人情報の取り扱いには慎重を期しているところですが、本学の取扱う在学生等の個人情報及びその利用目的は以下のとおりです。

### 【在学生等の個人情報及びその利用目的】

#### 1. 入学時に取得する個人情報

##### (1) 在学生に関する情報 (2) 保護者等に関する情報

以上の個人情報は、

- ① 学籍原簿等各種帳票類への記載、履修科目の登録、授業の実施、試験の実施、成績処理、成績の通知等在学生の教育、教務上及びキャリア支援上必要な事項の実施・指導・連絡のため
- ② 在学生の生活指導上又は健康管理上必要がある場合の指導・連絡のため
- ③ 大学行事の連絡のため
- ④ 大学附属図書館の別冊利用に伴う連絡のため
- ⑤ 学納金に関する事項の請求・連絡等のために利用いたします。

##### (3) 既往症、現在の健康状態、健康上の留意事項等

以上の個人情報は、在学生に対する日常的な健康安全管理の実施・指導や健康管理策等を検討する場合の資料として、可能な限り匿名化した上で利用いたします。

##### (4) 出身校から提出された指導要録及び調査書等（学業成績、出席状況等）

以上の個人情報は、在学生の教科指導又は生活指導等を実施する時の参考資料として利用いたします。

##### (5) 在学生又は保護者等の利用する金融機関名、口座番号、名義人等

以上の個人情報は、学納金及びキャンパスカードシステム利用料（利用代金）の自動口座振替のために、委託業者及び金融機関に提供いたします。

#### 2. 入学後の教育活動等の中で取り扱う個人情報

##### (1) 授業の出欠状況等 (2) 学業成績及び修得単位の状況

##### (3) 学修指導・キャリア支援・進路指導及び生活指導上の課題事項

##### (4) サークル活動、学生会活動、ボランティア活動等の情報 (5) 各種表彰等

##### (6) 各種検定試験の成績、可否、取得資格等

以上の個人情報は、

- ① 学修指導、成績判定、単位認定、卒業認定等に伴う各種帳簿への記録及び教務上必要な事項の実施・指導・連絡のため
- ② 生活指導・キャリア支援・進路指導上必要がある場合の指導・連絡のため
- ③ その他在学生の学事の処理を行う上で必要な事項の指導・連絡のために利用します。

なお、本学では、大学と学生本人及び保護者が一体となった教育を目指しており定期試験の結果（成績表）を学生本人及び保護者へ通知しております。

また、授業の出欠状況が思わしくない学生については、大学から保護者等へ照会させていただく場合があります。

**(7) 健康診断結果、カウンセリング室及び保健室における相談内容等**

以上の個人情報は、在学生に対する日常的な健康管理の実施・指導等のために、可能な限り匿名化した上で利用いたします。

**(8) 学納金等の納付状況等**

以上の個人情報は、学納金に関する事項の請求・連絡等のために利用いたします。

**(9) 本学の奨学金給付状況及び授業料減免制度の状況並びに申請時に提出される関係書類等**

以上の個人情報は、在学生の奨学事務等に利用いたします。

**(10) 証明写真（身分証明書等）**

以上の個人情報は、学生個票や身分証明書（キャンパスカード）、進路登録カード、クラス名簿、履修者名簿、及び学内データベースに掲載し、学修指導、生活指導及びキャリア支援などに役立たせるために利用いたします。

**(11) 授業、サークル活動、各種行事の際に撮影・録音した写真、映像、音声等**

以上の個人情報は、学内報、大学案内その他のPR誌、入学試験要項又はウェブサイト等に掲載することがあります。ただし、撮影・録音等は、事前に学生に了解を得た上で行います。

**(12) 本学の関係団体における個人情報の取り扱いについて**

本学には本学と密接な関係を持ち、学生生活の充実や本学の発展に寄与している以下の団体があります。個人情報の取り扱いについては、十分な指導を行ったうえで一定の基準のもとに個人情報の提供を行っています。

①学生会

本人確認・呼び出し等のために、学生氏名及び所属学科・学籍番号の情報提供を行っています。

②同窓会

卒業生に同窓会に関する情報を提供するために、学生氏名及び所属学科・学籍番号・住所の情報提供を行っています。

在学生等に関する個人情報の取り扱いについて疑問等がありましたら、下記の相談窓口又は関連部課窓口にお問い合わせください。

**【個人情報の取り扱いに関する相談窓口】**

豊橋創造大学・豊橋創造大学短期大学部

個人情報保護委員会 [privacy@sozo.ac.jp](mailto:privacy@sozo.ac.jp)

**【関連部課室電話番号】**

代表電話を使用せず直接部課室に接続します。

キャリアセンター	0532-54-9721	図書館	0532-54-9728
教務課	0532-54-9722	地域連携・広報センター	0532-54-9729
学生課	0532-54-9723	創造同窓会	0532-54-9433
庶務課	0532-54-9724	短大同窓会	0532-54-9435
入試センター	0532-54-9725		

## 教員メールアドレス一覧

氏 名	メールアドレス
後藤 勝正	goto@sozo.ac.jp
加藤 知佳子	katochi@sozo.ac.jp
桂川 純子	j-katsuragawa@sozo.ac.jp
金井 章	kanai@sozo.ac.jp
小竹 伴照	t-kotake@sozo.ac.jp
富岡 美佳	m-tomioka@sozo.ac.jp
豊島 由樹子	y-toyoshima@sozo.ac.jp
原沢 優子	y-harasawa@sozo.ac.jp
藤井 徹也	t-fujii@sozo.ac.jp
蒔田 寛子	h-makita@sozo.ac.jp
辻村 尚子	t-shoko@sozo.ac.jp







学籍番号

---

学年・クラス

年

クラス

---

氏名

---



Care & Idea

豊橋創造大学

大学院 健康科学研究科

〒440-8511 愛知県豊橋市牛川町松下20-1  
TEL.(0532)54-9722 FAX.(0532)55-0803

2026年4月1日 発行  
編集・発行／豊橋創造大学 教務課